

## 2.経理の状況

### 〈計算書類関係〉

計算書類等の内容については、会計監査人（新日本有限責任監査法人）の監査を受けています。

#### (1) 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	年度	2015年度末	2016年度末
		金額	金額
(資産の部)			
現金及び預貯金		528,337	438,454
現金		196	166
預貯金		528,140	438,287
コールローン		116,900	98,500
買入金銭債権		233,206	192,213
金銭の信託		52,806	50,191
有価証券		30,250,119	30,498,102
国債		14,545,593	14,084,907
地方債		125,047	109,098
社債		1,910,798	2,023,985
株式		3,560,485	3,666,952
外国証券		9,451,844	9,868,430
その他の証券		656,349	744,727
貸付金		2,826,052	2,657,852
保険約款貸付		405,056	381,830
一般貸付		2,420,995	2,276,021
有形固定資産		1,164,183	1,124,412
土地		792,101	772,021
建物		363,038	343,658
リース資産		4,491	4,923
建設仮勘定		2,402	691
その他の有形固定資産		2,149	3,117
無形固定資産		81,603	87,793
ソフトウェア		59,516	65,228
その他の無形固定資産		22,086	22,564
再保険貸		4,434	2,260
その他資産		541,917	434,994
未収金		75,541	51,700
前払費用		12,019	11,114
未収収益		155,664	156,736
預託金		40,545	41,368
先物取引差入証拠金		57,785	65,173
先物取引差金勘定		47	12
金融派生商品		179,189	73,403
仮払金		9,536	4,865
その他の資産		11,586	30,618
支払承諾見返		97,056	103,786
貸倒引当金		△1,237	△1,472
投資損失引当金		△423	△444
資産の部合計		35,894,956	35,686,645

(単位：百万円)

科目	年度	2015年度末	2016年度末
		金額	金額
<b>(負債の部)</b>			
保険契約準備金		30,635,217	30,864,753
支払備金		260,304	229,698
責任準備金		29,984,210	30,249,170
契約者配当準備金		390,701	385,884
再保険借		684	741
社債		215,727	476,277
その他負債		1,095,099	1,004,764
債券貸借取引受入担保金		473,284	267,871
借入金		286,277	283,000
未払法人税等		28,307	9,967
未払金		77,232	43,804
未払費用		48,456	48,088
前受収益		728	684
預り金		53,528	55,287
預り保証金		51,110	50,260
金融派生商品		60,808	231,126
金融商品等受入担保金		—	2,848
リース債務		4,393	4,956
資産除去債務		2,675	2,674
仮受金		7,695	1,473
その他の負債		601	2,720
退職給付引当金		377,967	380,870
役員退職慰労引当金		1,868	1,498
時効保険金等払戻引当金		800	800
価格変動準備金		148,453	164,453
繰延税金負債		138,696	129,833
再評価に係る繰延税金負債		80,189	77,236
支払承諾		97,056	103,786
<b>負債の部合計</b>		<b>32,791,760</b>	<b>33,205,016</b>
<b>(純資産の部)</b>			
資本金		343,146	60,000
資本剰余金		343,772	470,000
資本準備金		343,146	60,000
その他資本剰余金		625	410,000
利益剰余金		511,892	31,230
利益準備金		5,600	—
その他利益剰余金		506,292	31,230
危険準備積立金		43,120	—
価格変動積立金		65,000	—
不動産圧縮積立金		25,517	1,257
繰越利益剰余金		372,655	29,972
自己株式		△23,231	—
株主資本合計		1,175,581	561,230
その他有価証券評価差額金		1,946,957	1,963,267
繰延ヘッジ損益		△3,865	△25,327
土地再評価差額金		△16,402	△17,541
評価・換算差額等合計		1,926,688	1,920,398
新株予約権		925	—
<b>純資産の部合計</b>		<b>3,103,195</b>	<b>2,481,628</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>		<b>35,894,956</b>	<b>35,686,645</b>

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## (2) 損益計算書

(単位：百万円)

科目	年度	2015年度	2016年度①	2016年度②
		金額	金額	金額
経常収益		4,265,779	3,946,774	1,976,814
保険料等収入		2,866,602	2,547,581	1,233,330
保険料		2,865,384	2,546,708	1,232,824
再保険収入		1,218	873	505
資産運用収益		1,060,017	1,072,049	593,797
利息及び配当金等収入		802,203	773,506	396,642
預貯金利息		11,213	7,416	3,280
有価証券利息・配当金		647,317	628,036	324,755
貸付金利息		62,387	56,405	27,584
不動産賃貸料		69,545	70,696	35,676
その他利息配当金		11,738	10,951	5,345
金銭の信託運用益		—	4,207	4,018
有価証券売却益		211,921	200,059	110,423
有価証券償還益		44,645	38,258	17,445
貸倒引当金戻入額		838	—	—
その他運用収益		409	1,231	674
特別勘定資産運用益		—	54,786	64,592
その他経常収益		339,158	327,143	149,686
年金特約取扱受入金		708	655	313
保険金据置受入金		301,478	270,929	137,930
支払備金戻入額		—	30,606	—
退職給付引当金戻入額		11,931	—	1,934
その他の経常収益		25,039	24,952	9,508
経常費用		3,921,556	3,664,964	1,877,646
保険金等支払金		2,681,396	2,327,502	1,182,154
保険金		709,000	773,749	385,341
年金		592,255	535,014	291,580
給付金		381,741	361,388	175,674
解約返戻金		584,186	507,647	247,083
その他返戻金		412,606	147,966	81,528
再保険料		1,604	1,737	947
責任準備金等繰入額		209,103	273,344	119,799
支払備金繰入額		57,227	—	7,814
責任準備金繰入額		143,236	264,959	107,827
契約者配当金積立利息繰入額		8,639	8,384	4,156
資産運用費用		273,985	286,301	203,865
支払利息		15,242	12,995	6,838
金銭の信託運用損		791	—	—
有価証券売却損		62,457	91,167	59,864
有価証券評価損		873	24,814	15,307
有価証券償還損		1,201	2,610	857
金融派生商品費用		54,120	14,750	52,851
為替差損		53,872	81,093	37,506
貸倒引当金繰入額		—	248	349
投資損失引当金繰入額		423	21	10
貸付金償却		59	41	21
賃貸用不動産等減価償却費		14,165	13,765	6,788
その他運用費用		39,209	44,794	23,470
特別勘定資産運用損		31,568	—	—
事業費		404,114	422,089	213,205
その他経常費用		352,956	355,726	158,622
保険金据置支払金		281,561	278,833	120,274
税金		28,411	33,160	18,666
減価償却費		32,770	30,892	15,151
退職給付引当金繰入額		—	2,603	—
その他の経常費用		10,213	10,235	4,529
経常利益		344,222	281,810	99,167

(単位：百万円)

科目	年度	2015年度	2016年度①	2016年度②
		金額	金額	金額
特別利益		286	4,976	508
固定資産等処分益		286	4,976	508
特別損失		52,274	43,934	19,605
固定資産等処分損		1,307	13,892	8,866
減損損失		34,548	13,742	2,438
価格変動準備金繰入額		16,000	16,000	8,000
その他特別損失		418	299	299
契約者配当準備金繰入額		97,500	85,000	40,000
税引前当期純利益		194,734	157,851	40,071
法人税及び住民税		95,850	58,707	26,982
法人税等調整額		△30,238	△18,047	△19,292
法人税等合計		65,611	40,660	7,689
当期純利益		129,123	117,191	32,382

①旧第一生命と分割準備会社及び現第一生命の合算値 (A + B + C)

②分割準備会社と現第一生命の数値 (B + C)

(冒頭の「本資料の記載数値について」参照)

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## (3) キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	年度	2015年度	2016年度
		金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益 (△は損失)	—	—	40,071
賃貸用不動産等減価償却費	—	—	6,788
減価償却費	—	—	15,151
減損損失	—	—	2,438
支払備金の増減額 (△は減少)	—	—	7,814
責任準備金の増減額 (△は減少)	—	—	107,827
契約者配当準備金積立利息繰入額	—	—	4,156
契約者配当準備金繰入額 (△は戻入額)	—	—	40,000
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	—	336
投資損失引当金の増減額 (△は減少)	—	—	10
貸付金償却	—	—	21
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	—	△1,635
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	—	△286
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	—	—	8,000
利息及び配当金等収入	—	—	△396,642
有価証券関係損益 (△は益)	—	—	△116,431
支払利息	—	—	6,838
為替差損益 (△は益)	—	—	37,506
有形固定資産関係損益 (△は益)	—	—	8,312
再保険貸の増減額 (△は増加)	—	—	91
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)	—	—	△4,274
再保険借の増減額 (△は減少)	—	—	139
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)	—	—	11,058
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額 (△は減少)	—	—	△6
その他	—	—	72,630
小計	—	—	△150,081
利息及び配当金等の受取額	—	—	399,274
利息の支払額	—	—	△7,947
契約者配当金の支払額	—	—	△41,342
その他	—	—	△246,985
法人税等の支払額	—	—	△8,199
営業活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△55,282
投資活動によるキャッシュ・フロー			
買入金銭債権の取得による支出	—	—	△16,014
買入金銭債権の売却・償還による収入	—	—	33,900
金銭の信託の減少による収入	—	—	2,518
有価証券の取得による支出	—	—	△2,872,479
有価証券の売却・償還による収入	—	—	2,539,993
貸付けによる支出	—	—	△146,697
貸付金の回収による収入	—	—	295,908
その他	—	—	89,380
資産運用活動計	—	—	△73,489
(営業活動及び資産運用活動計)	—	—	(△128,772)
有形固定資産の取得による支出	—	—	△15,773
有形固定資産の売却による収入	—	—	21,027
無形固定資産の取得による支出	—	—	△13,433
無形固定資産の売却による収入	—	—	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△81,658
財務活動によるキャッシュ・フロー			
リース債務の返済による支出	—	—	△808
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△808
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	990
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	—	△136,759
現金及び現金同等物期首残高	—	—	100
会社分割に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	673,613
現金及び現金同等物期末残高	—	—	536,954

(注) 1.2015年度は、旧第一生命にて連結財務諸表を作成したため、保険業法施行規則第59条の2第5項イの規定に基づきキャッシュ・フロー計算書は作成していません。  
2.2016年度は、分割準備会社と現第一生命の数値 (B + C) を記載しております。  
(冒頭の「本資料の記載数値について」参照)

## (4) 株主資本等変動計算書

2015年度

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			
						危険準備積立金	価格変動積立金	不動産圧縮積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	343,104	343,104	151	343,255	5,600	43,120	65,000	24,875	292,143
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	42	42		42					
剰余金の配当				—					△33,359
当期純利益				—					129,123
自己株式の取得				—					
自己株式の処分			474	474					
税率変更に伴う不動産圧縮積立金の増加				—				297	△297
不動産圧縮積立金の積立				—				470	△470
不動産圧縮積立金の取崩				—				△126	126
土地再評価差額金の取崩				—					△14,609
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	42	42	474	517	—	—	—	641	80,512
当期末残高	343,146	343,146	625	343,772	5,600	43,120	65,000	25,517	372,655

(単位：百万円)

	株主資本			評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
	利益剰余金 合計								
当期首残高	430,738	△9,723	1,107,375	2,488,665	△12,036	△33,424	2,443,204	753	3,551,333
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	—		84						84
剰余金の配当	△33,359		△33,359						△33,359
当期純利益	129,123		129,123						129,123
自己株式の取得	—	△15,000	△15,000						△15,000
自己株式の処分	—	1,492	1,967						1,967
税率変更に伴う不動産圧縮積立金の増加	—		—						—
不動産圧縮積立金の積立	—		—						—
不動産圧縮積立金の取崩	—		—						—
土地再評価差額金の取崩	△14,609		△14,609						△14,609
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				△541,708	8,170	17,021	△516,516	171	△516,344
当期変動額合計	81,153	△13,507	68,206	△541,708	8,170	17,021	△516,516	171	△448,138
当期末残高	511,892	△23,231	1,175,581	1,946,957	△3,865	△16,402	1,926,688	925	3,103,195

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					不動産圧縮 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	100	—	—	—	—	—	—	100
当期変動額								
会社分割による増加	59,900	60,000	410,000	470,000				529,900
当期純利益						32,382	32,382	32,382
不動産圧縮積立金の積立					1,257	△1,257		—
土地再評価差額金の取崩						△1,151	△1,151	△1,151
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	59,900	60,000	410,000	470,000	1,257	29,972	31,230	561,130
当期末残高	60,000	60,000	410,000	470,000	1,257	29,972	31,230	561,230

(単位：百万円)

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	—	—	—	—	100
当期変動額					
会社分割による増加					529,900
当期純利益					32,382
不動産圧縮積立金の積立					—
土地再評価差額金の取崩					△1,151
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,963,267	△25,327	△17,541	1,920,398	1,920,398
当期変動額合計	1,963,267	△25,327	△17,541	1,920,398	2,481,528
当期末残高	1,963,267	△25,327	△17,541	1,920,398	2,481,628

## (5) 経常利益等の明細 (基礎利益)

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
基礎収益	4,071,163	3,742,507
保険料等収入	2,866,602	2,547,581
資産運用収益	847,917	867,782
うち利息及び配当金等収入	802,203	773,506
その他経常収益	356,643	327,143
基礎費用	3,605,721	3,350,308
保険金等支払金	2,681,396	2,327,502
責任準備金等繰入額	65,867	170,574
資産運用費用	101,387	74,415
事業費	404,114	422,089
その他経常費用	352,956	355,726
基礎利益 A	465,441	392,199
キャピタル収益	211,921	204,266
金銭の信託運用益	—	4,207
有価証券売却益	211,921	200,059
キャピタル費用	172,115	211,825
金銭の信託運用損	791	—
有価証券売却損	62,457	91,167
有価証券評価損	873	24,814
金融派生商品費用	54,120	14,750
為替差損	53,872	81,093
キャピタル損益 B	39,805	△7,558
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	505,247	384,640
臨時収益	179	—
個別貸倒引当金戻入額	179	—
臨時費用	161,204	102,830
危険準備金繰入額	18,000	18,000
個別貸倒引当金繰入額	—	△1
貸付金償却	59	41
その他臨時費用 (※)	143,144	84,791
臨時損益 C	△161,024	△102,830
経常利益 A + B + C	344,222	281,810

※ その他臨時費用には、投資損失引当金繰入額（2015年度：423百万円、2016年度：21百万円）及び保険業法施行規則第69条第5項の規定により責任準備金を追加して積み立てた金額（2015年度：142,721百万円、2016年度：84,770百万円）の合計額を記載しました。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況



## (6) 基礎利益の内訳

(単位：億円)

区 分	2015年度	2016年度
基礎利益 ①	4,654	3,921
順ざや額	978	721
最低保証に係る責任準備金等の増減による影響	4	4
保険関係損益	3,671	3,195
うち危険差益	3,251	3,218
キャピタル損益 ②	398	△75
臨時損益 ③	△1,610	△1,028
経常利益 ④ (=①+②+③)	3,442	2,818
特別損益 ⑤	△519	△389
契約者配当準備金繰入額 ⑥	△975	△850
法人税等その他 ⑦	△656	△406
当期純利益 ⑧ (=④+⑤+⑥+⑦)	1,291	1,171

- (注) 1.第一生命単体の数値を記載しています。  
2.順ざや額は、想定した運用収益（予定利息）と実際の運用収益との差から生じるものです。  
3.最低保証に係る責任準備金等の増減による影響とは、最低保証に係る一般勘定責任準備金の増減による影響と、市場価格調整に伴う責任準備金の増減による影響を合算した数値です。  
最低保証に係る責任準備金等を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因になり、戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。  
4.保険関係損益とは、基礎利益のうち、順ざや額及び最低保証に係る責任準備金等の増減による影響を除いた保険関係収支等から生じるものです。

(7) 会計方針及び注記事項

(貸借対照表関係)

2015年度末	2016年度末
<p>1 有価証券（現金及び預貯金、買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む。）は、次のとおり評価しております。</p> <p>(1) 売買目的有価証券 時価法（売却原価の算定は移動平均法）</p> <p>(2) 満期保有目的の債券 移動平均法による償却原価法（定額法）</p> <p>(3) 責任準備金対応債券（「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券をいう。） 移動平均法による償却原価法（定額法）</p> <p>(4) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(5) その他有価証券 ① 時価のあるもの 事業年度末日の市場価格等（国内株式は事業年度末前1ヶ月の市場価格の平均）に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法） ② 時価を把握することが極めて困難と認められるもの a 取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む。） 移動平均法による償却原価法（定額法） b 上記以外の有価証券 移動平均法による原価法 なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。</p> <p>2 責任準備金対応債券の貸借対照表計上額及び時価並びにリスク管理方針の概要は次のとおりであります。</p> <p>(1) 責任準備金対応債券の貸借対照表計上額は、12,027,685百万円、時価は15,449,932百万円であります。</p> <p>(2) 責任準備金対応債券に係るリスク管理方針の概要は、次のとおりであります。 保険商品の特性に応じて小区分を設定し、リスク管理を適切に行うために、各小区分を踏まえた全体的な資産運用方針と資金配分計画を策定しております。また、責任準備金対応債券と責任準備金のデュレーションが一定幅の中で一致していることを、定期的に検証しております。なお、小区分は次のとおり設定しております。</p> <p>① 個人保険・個人年金保険 ② 無配当一時払終身保険（告知不要型） ③ 財形保険・財形年金保険 ④ 団体年金保険 ただし、一部保険種類を除く。</p> <p>3 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。</p> <p>4 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 ・再評価を行った年月日 2001年3月31日 ・同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める公示価格及び第2条第4号に定める路線価に基づいて、合理的な調整を行って算出</p> <p>5 固定資産の減価償却の方法は、次のとおりであります。</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く。） 有形固定資産の減価償却の方法は、定率法（ただし、建物（建物付属設備、構築物を除く。）については定額法）によっております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 2年～60年 その他の有形固定資産 2年～20年 なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却しております。 また、2007年3月31日以前に取得した有形固定資産のうち、従来の償却可能限度額まで償却が到達している有形固定資産については、償却到達年度の翌事業年度より残存簿価を5年間で均等償却しております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く。） 無形固定資産の減価償却の方法は、定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとした定額法によっております。</p> <p>(4) 有形固定資産の減価償却累計額 662,411百万円</p> <p>6 外貨建資産及び負債（子会社株式及び関連会社株式は除く。）は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社株式及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。</p> <p>7 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下、「実質破綻先」という。）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。</p>	<p>1 有価証券（現金及び預貯金、買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む。）は、次のとおり評価しております。</p> <p>(1) 売買目的有価証券 時価法（売却原価の算定は移動平均法）</p> <p>(2) 満期保有目的の債券 移動平均法による償却原価法（定額法）</p> <p>(3) 責任準備金対応債券（「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券をいう。） 移動平均法による償却原価法（定額法）</p> <p>(4) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(5) その他有価証券 ① 時価のあるもの 事業年度末日の市場価格等（国内株式は事業年度末前1ヶ月の市場価格の平均）に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法） ② 時価を把握することが極めて困難と認められるもの a 取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む。） 移動平均法による償却原価法（定額法） b 上記以外の有価証券 移動平均法による原価法 なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。</p> <p>2 責任準備金対応債券に係るリスク管理方針の概要は、次のとおりであります。 保険商品の特性に応じて小区分を設定し、リスク管理を適切に行うために、各小区分を踏まえた全体的な資産運用方針と資金配分計画を策定しております。また、責任準備金対応債券と責任準備金のデュレーションが一定幅の中で一致していることを、定期的に検証しております。なお、小区分は次のとおり設定しております。</p> <p>① 個人保険・個人年金保険 ② 無配当一時払終身保険（告知不要型） ③ 財形保険・財形年金保険 ④ 団体年金保険 ただし、一部保険種類を除く。</p> <p>3 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。</p> <p>4 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 ・再評価を行った年月日 2001年3月31日 ・同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める公示価格及び第2条第4号に定める路線価に基づいて、合理的な調整を行って算出</p> <p>5 固定資産の減価償却の方法は、次のとおりであります。</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く。） 有形固定資産の減価償却の方法は、定率法（ただし、建物（2016年3月31日以前に取得した建物付属設備及び構築物を除く。）については定額法）によっております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 2年～60年 その他の有形固定資産 2年～20年 なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却しております。 また、2007年3月31日以前に取得した有形固定資産のうち、従来の償却可能限度額まで償却が到達している有形固定資産については、償却到達年度の翌事業年度より残存簿価を5年間で均等償却しております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く。） 無形固定資産の減価償却の方法は、定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとした定額法によっております。</p> <p>(4) 有形固定資産の減価償却累計額 607,749百万円</p> <p>6 外貨建資産及び負債（子会社株式及び関連会社株式は除く。）は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社株式及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。</p> <p>7 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下、「実質破綻先」という。）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。 また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。</p>

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

(貸借対照表関係)

2015年度末	2016年度末																																
<p>また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。</p> <p>上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等を債権額等に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は58百万円であります。</p> <p>8 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額を計上しております。</p> <p>退職給付債務及び退職給付費用の処理方法は次のとおりであります。</p> <p>(1) 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>(2) 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>なお、退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法が、連結財務諸表と異なっております。</p> <p>9 投資損失引当金は、投資による損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、時価を把握することが極めて困難な有価証券について、将来発生する可能性のある損失見込額を計上しております。</p> <p>10 役員退職慰労引当金は、役員退任慰労金の支給に備えるため、第105回定時総代会で決議された役員退任慰労金の打ち切り支給額の将来の支給見込額及び第105回定時総代会以前に退任している役員に対する将来の役員年金支給見込額を計上しております。</p> <p>11 時効保険金等払戻引当金は、時効処理を行った保険金等について契約者からの払戻請求に基づく払戻損失に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。</p> <p>12 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。</p> <p>13 ヘッジ会計の方法は、次のとおりであります。</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法は「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、主に、貸付金の一部、公社債の一部及び借入金・社債の一部に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理及び繰延ヘッジ、外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債の一部、外貨建定期預金及び外貨建株式（予定取引）の一部に対する為替変動に係るキャッシュ・フローのヘッジとして通貨スワップ、為替予約による振当処理及び繰延ヘッジ、外貨建債券の一部に対する為替変動に係る価格変動リスクのヘッジとして通貨オプション、為替予約による時価ヘッジ、外貨建債券の一部に対する金利変動リスクのヘッジとして債券店頭オプションによる繰延ヘッジ、また、国内株式の一部及び外貨建株式（予定取引）の一部に対する価格変動リスクのヘッジとして株式オプション、株式先渡による繰延ヘッジ及び時価ヘッジを行っております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <table border="1" data-bbox="159 1388 782 1568"> <tr> <td>(ヘッジ手段)</td> <td>(ヘッジ対象)</td> </tr> <tr> <td>金利スワップ</td> <td>貸付金、公社債、借入金・社債</td> </tr> <tr> <td>通貨スワップ</td> <td>外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債</td> </tr> <tr> <td>為替予約</td> <td>外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）</td> </tr> <tr> <td>通貨オプション</td> <td>外貨建債券</td> </tr> <tr> <td>債券店頭オプション</td> <td>外貨建債券</td> </tr> <tr> <td>株式オプション</td> <td>国内株式、外貨建株式（予定取引）</td> </tr> <tr> <td>株式先渡</td> <td>国内株式</td> </tr> </table> <p>(3) ヘッジ方針 資産運用に関する社内規程等に基づき、ヘッジ対象に係る価格変動リスク及び為替変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジの有効性の判定は、主に、ヘッジ対象とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動又は時価変動を比較する比率分析によっております。</p> <p>14 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税のうち、法人税法施行令に定める繰延消費税については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税以外のものについては、発生事業年度に費用処理しております。</p> <p>15 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。</p> <p>(1) 標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）</p> <p>(2) 標準責任準備金の対象とならない契約については平準純保険料式 2007年度より1996年3月以前加入の終身保険のうち、保険料払込満了後契約（一時払契約を含む。）を対象に、保険業法施行規則第69条第5項の規定により責任準備金を追加して積み立てることとし、既に保険料払込満了後となっている契約（一時払契約を含む。）については、9年間にわたり段階的に積み立てることとしております。これにより、当事業年度に積み立てた額は、142,163百万円でありま</p>	(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)	金利スワップ	貸付金、公社債、借入金・社債	通貨スワップ	外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債	為替予約	外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）	通貨オプション	外貨建債券	債券店頭オプション	外貨建債券	株式オプション	国内株式、外貨建株式（予定取引）	株式先渡	国内株式	<p>上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等を債権額等に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は55百万円であります。</p> <p>8 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>退職給付債務及び退職給付費用の処理方法は次のとおりであります。</p> <p>(1) 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>(2) 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>9 投資損失引当金は、投資による損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、時価を把握することが極めて困難な有価証券について、将来発生する可能性のある損失見込額を計上しております。</p> <p>10 役員退職慰労引当金は、役員退任慰労金の支給に備えるため、社内規程に基づく支給見込額を計上しております。</p> <p>11 時効保険金等払戻引当金は、時効処理を行った保険金等について契約者からの払戻請求に基づく払戻損失に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。</p> <p>12 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。</p> <p>13 ヘッジ会計の方法は、次のとおりであります。</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法は「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、主に、貸付金の一部、公社債の一部及び借入金・社債の一部に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理及び繰延ヘッジ、外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債の一部、外貨建定期預金及び外貨建株式（予定取引）の一部に対する為替変動に係るキャッシュ・フローのヘッジとして通貨スワップ、為替予約による振当処理及び繰延ヘッジ、外貨建債券の一部に対する為替変動に係る価格変動リスクのヘッジとして通貨オプション、為替予約による時価ヘッジ、外貨建債券の一部に対する金利変動リスクのヘッジとして債券店頭オプションによる繰延ヘッジ、国内株式の一部及び外貨建株式（予定取引）の一部に対する価格変動リスクのヘッジとして株式オプション、株式先渡による繰延ヘッジ及び時価ヘッジを行っております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <table border="1" data-bbox="798 1276 1420 1456"> <tr> <td>(ヘッジ手段)</td> <td>(ヘッジ対象)</td> </tr> <tr> <td>金利スワップ</td> <td>貸付金、公社債、借入金・社債、保険負債</td> </tr> <tr> <td>通貨スワップ</td> <td>外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債</td> </tr> <tr> <td>為替予約</td> <td>外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）</td> </tr> <tr> <td>通貨オプション</td> <td>外貨建債券</td> </tr> <tr> <td>債券店頭オプション</td> <td>外貨建債券</td> </tr> <tr> <td>株式オプション</td> <td>国内株式、外貨建株式（予定取引）</td> </tr> <tr> <td>株式先渡</td> <td>国内株式</td> </tr> </table> <p>(3) ヘッジ方針 資産運用に関する社内規程等に基づき、ヘッジ対象に係る価格変動リスク及び為替変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジの有効性の判定は、主に、ヘッジ対象とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動又は時価変動を比較する比率分析によっております。</p> <p>14 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税のうち、法人税法施行令に定める繰延消費税については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税以外のものについては、発生事業年度に費用処理しております。</p> <p>15 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。なお、保険業法施行規則第69条第5項の規定により、一部の終身保険契約を対象に追加して積み立てた責任準備金が含まれております。</p> <p>(1) 標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）</p> <p>(2) 標準責任準備金の対象とならない契約については平準純保険料式</p> <p>16 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。</p>	(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)	金利スワップ	貸付金、公社債、借入金・社債、保険負債	通貨スワップ	外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債	為替予約	外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）	通貨オプション	外貨建債券	債券店頭オプション	外貨建債券	株式オプション	国内株式、外貨建株式（予定取引）	株式先渡	国内株式
(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)																																
金利スワップ	貸付金、公社債、借入金・社債																																
通貨スワップ	外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債																																
為替予約	外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）																																
通貨オプション	外貨建債券																																
債券店頭オプション	外貨建債券																																
株式オプション	国内株式、外貨建株式（予定取引）																																
株式先渡	国内株式																																
(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)																																
金利スワップ	貸付金、公社債、借入金・社債、保険負債																																
通貨スワップ	外貨建債券、外貨建貸付金、外貨建借入金・外貨建社債																																
為替予約	外貨建債券、外貨建定期預金、外貨建株式（予定取引）																																
通貨オプション	外貨建債券																																
債券店頭オプション	外貨建債券																																
株式オプション	国内株式、外貨建株式（予定取引）																																
株式先渡	国内株式																																

(貸借対照表関係)

2015年度末	2016年度末																																																																		
<p>16 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表価額は、2,230,552百万円であります。</p> <p>17 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3カ月以上延滞債権及び貸付条件緩和債権の額は、3,513百万円であります。なお、それぞれの内訳は次のとおりであります。 貸付金のうち、破綻先債権額は93百万円、延滞債権額は3,005百万円、3カ月以上延滞債権額はありませぬ。貸付条件緩和債権額は415百万円であります。 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかつた貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であつて、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。 3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3カ月以上延滞している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。 7にあげた取立不能見込額の直接減額により、破綻先債権額は2百万円、延滞債権額は56百万円それぞれ減少しております。</p> <p>18 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定の資産の額は、1,042,803百万円であります。なお、負債の額も同額であります。</p> <p>19 関係会社に対する金銭債権の総額は27,653百万円、金銭債務の総額は4,599百万円であります。</p> <p>20 税効果会計に関する事項は、次のとおりであります。</p> <p>(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>繰延税金資産</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  保険契約準備金</td> <td style="text-align: right;">434,946百万円</td> </tr> <tr> <td>  退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">129,729 //</td> </tr> <tr> <td>  価格変動準備金</td> <td style="text-align: right;">41,484 //</td> </tr> <tr> <td>  減損損失</td> <td style="text-align: right;">17,178 //</td> </tr> <tr> <td>  有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">13,219 //</td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td style="text-align: right;">29,997 //</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right;">666,556 //</td> </tr> <tr> <td>  評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">△27,575 //</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">638,981 //</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">△744,651百万円</td> </tr> <tr> <td>  不動産圧縮積立金</td> <td style="text-align: right;">△9,884 //</td> </tr> <tr> <td>  未収株式配当金</td> <td style="text-align: right;">△7,470 //</td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td style="text-align: right;">△15,671 //</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right;">△777,677 //</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債の純額</td> <td style="text-align: right;">△138,696 //</td> </tr> </table> <p>(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">28.76%</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>税率変更による期末繰延税金資産の減額修正</td> <td style="text-align: right;">9.02 //</td> </tr> <tr> <td>土地再評価差額金の取崩</td> <td style="text-align: right;">△3.48 //</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">△0.61 //</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right;">33.69 //</td> </tr> </table> <p>(3) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が2016年3月29日に国会で成立したことに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率が28.76%から、2016年4月1日以降に開始する事業年度に適用されるものについては28.16%、2018年4月1日以降に開始する事業年度に適用されるものについては27.92%にそれぞれ変更されております。 この変更により、繰延税金負債は5,083百万円減少し、法人税等調整額は17,568百万円増加しております。</p> <p>21 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>当事業年度期首残高</td> <td style="text-align: right;">405,566百万円</td> </tr> <tr> <td>当事業年度契約者配当支払額</td> <td style="text-align: right;">121,003 //</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td style="text-align: right;">8,639 //</td> </tr> <tr> <td>契約者配当準備金繰入額</td> <td style="text-align: right;">97,500 //</td> </tr> <tr> <td>当事業年度末残高</td> <td style="text-align: right;">390,701 //</td> </tr> </table> <p>22 関係会社の株式等は、1,127,381百万円であります。</p> <p>23 保険業法第91条の規定による組織変更剰余金額は、117,776百万円であります。</p> <p>24 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>有価証券(国債)</td> <td style="text-align: right;">393,315百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券(外国証券)</td> <td style="text-align: right;">4,606 //</td> </tr> <tr> <td>預貯金</td> <td style="text-align: right;">86 //</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">398,008 //</td> </tr> </table> <p>担保付き債務の額は次のとおりであります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>債券貸借取引受入担保金</td> <td style="text-align: right;">473,284百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記有価証券(国債)には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券381,453百万円が含まれております。</p>	繰延税金資産		保険契約準備金	434,946百万円	退職給付引当金	129,729 //	価格変動準備金	41,484 //	減損損失	17,178 //	有価証券評価損	13,219 //	その他	29,997 //	繰延税金資産小計	666,556 //	評価性引当額	△27,575 //	繰延税金資産合計	638,981 //	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	△744,651百万円	不動産圧縮積立金	△9,884 //	未収株式配当金	△7,470 //	その他	△15,671 //	繰延税金負債合計	△777,677 //	繰延税金負債の純額	△138,696 //	法定実効税率	28.76%	(調整)		税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.02 //	土地再評価差額金の取崩	△3.48 //	その他	△0.61 //	税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.69 //	当事業年度期首残高	405,566百万円	当事業年度契約者配当支払額	121,003 //	利息による増加等	8,639 //	契約者配当準備金繰入額	97,500 //	当事業年度末残高	390,701 //	有価証券(国債)	393,315百万円	有価証券(外国証券)	4,606 //	預貯金	86 //	合計	398,008 //	債券貸借取引受入担保金	473,284百万円	<p>17 金融商品等に関する事項は、次のとおりであります。</p> <p>(1) 金融商品の状況に関する事項</p> <p>① 金融商品に対する取組方針</p> <p>当社は、生命保険契約の持つ負債特性を考慮し、年金や保険金等を長期にわたつて安定的に支払うことを目的に、ALM(Asset Liability Management:資産・負債総合管理)の考えに基づき確定利付資産(公社債、貸付等)を中心とした運用を行つております。また、経営の健全性を十分に確保した上で、許容できるリスクの範囲で株式や外国証券を保有することで、収益力の向上及びリスクの分散を図つております。 デリバティブ取引については、保有資産の残高を踏まえ、必要な範囲内で用いることとし、主に保有している現物資産に係る市場リスクのヘッジを目的とした取引を行つております。 資金調達については、主として、自己資本充実の一環として、銀行借入による間接金融の他、劣後債の発行といった資本市場からの資金の調達を行つております。調達したこれらの金融負債が、金利変動等による影響を受けないように、デリバティブ取引をヘッジ手段として一部の金融負債に対するヘッジ会計を適用してあります。</p> <p>② 金融商品の内容及びそのリスク</p> <p>当社が保有する金融資産のうち、有価証券は、主に株式、債券であり、主として、満期保有目的、責任準備金対応目的、その他の目的で保有してあります。これらは、それぞれ市場価格の変動リスク、発行体の信用リスク及び金利の変動リスクに晒されている他、外貨建のものは為替の変動リスクに晒されてあります。また、貸付金は、取引先の債務不履行によつてもたらされる信用リスクに晒されてあります。 資金調達における借入金・社債は、予期せぬ資金の流出等により支払期日にその支払を実行できなくなることや、通常より著しく高い金利で資金調達を余儀なくされることといった流動性リスクに晒されてあります。また、借入金・社債のうち変動金利や外貨建のものは、金利の変動リスクや為替の変動リスクに晒されてあります。 貸付金や借入金等の一部に関する金利の変動リスクのヘッジ手段として金利スワップ取引、国内株式に関する価格変動リスクのヘッジ手段として株式先渡取引、外貨建債券や短期外貨預金等の一部、外貨建借入金等の一部に関する為替変動リスクのヘッジ手段として為替予約取引、通貨オプション取引、通貨スワップ取引を行い、ヘッジ会計を適用してあります。 この他、保険負債の一部に関する金利変動リスクのヘッジ手段として「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(業種別監査委員会報告第26号)に基づく金利スワップ取引を行い、ヘッジ会計を適用してあります。 ヘッジ会計の適用にあつては、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)等における適用要件を満たすため、方針文書・規程等を整備した上で、ヘッジ対象とリスクの種類及び選択するヘッジ手段を明確にし、事前並びに事後の有効性の検証を実施してあります。</p> <p>③ 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>当社のリスク管理体制は次のとおりであります。</p> <p>a 市場リスクの管理</p> <p>資産運用に関する方針及び市場リスク管理に関する諸規定に従い、負債の特性を勘案した中長期的なアセットアロケーションによりリスク管理を行うことを基本とし、ポートフォリオを運用目的別に区分し、それぞれのリスク特性に応じた管理を行つてあります。</p> <p>(a) 金利リスクの管理</p> <p>金利の変動リスクに関して、金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握するとともに資産と負債のギャップ分析や金利感応度分析等のモニタリングを行い、定期的に取締役会等に報告してあります。</p> <p>(b) 為替リスクの管理</p> <p>為替の変動リスクに関して、金融資産及び負債の通貨別の構成比等を把握するとともに感応度分析等のモニタリングを行い、定期的に取締役会等に報告してあります。</p> <p>(c) 価格変動リスクの管理</p> <p>価格変動リスクに関して、有価証券を含めた運用資産ポートフォリオ全体を対象として、資産別のリスク特性に応じてリスク管理のスタンス、具体的管理方法を定め、保有残高や資産配分のリミットを設定する等の管理を行つてあります。 これらの情報はリスク管理所管を通じ、定期的に取締役会等に報告してあります。</p> <p>(d) デリバティブ取引</p> <p>デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の検証、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、投機的な利用を制限するため、資産区分別にヘッジ等利用目的による制限やポジション上限額等を設定してあります。</p> <p>b 信用リスクの管理</p> <p>資産運用に関する方針及び信用リスク管理に関する諸規定に従い、貸付金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応等と信管理に関する体制を整備し、運営してあります。社債投資においては、審査所管が個別に内部格付等に基づいて投資上限額を設定し、運用執行所管は上限枠の範囲内で投資を行うことで過度なリスクテイクを抑制してあります。また、大口と信先に対しては取組方針を策定し、遵守状況を確認する等、与信集中を回避するための枠組みを整備してあります。これらの与信管理は、審査所管の他、リスク管理所管が行い、定期的に取締役会等に報告してあります。更に、与信管理の状況については、内部監査部門がチェックしてあります。 有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、審査所管において、カウンターパーティー別・取引商品別に上限額を設定するとともに信用情報の把握を定期的に行い、リスク管理所管において、カレントエクスポージャー等の把握を定期的に行うことで管理してあります。</p>
繰延税金資産																																																																			
保険契約準備金	434,946百万円																																																																		
退職給付引当金	129,729 //																																																																		
価格変動準備金	41,484 //																																																																		
減損損失	17,178 //																																																																		
有価証券評価損	13,219 //																																																																		
その他	29,997 //																																																																		
繰延税金資産小計	666,556 //																																																																		
評価性引当額	△27,575 //																																																																		
繰延税金資産合計	638,981 //																																																																		
繰延税金負債																																																																			
その他有価証券評価差額金	△744,651百万円																																																																		
不動産圧縮積立金	△9,884 //																																																																		
未収株式配当金	△7,470 //																																																																		
その他	△15,671 //																																																																		
繰延税金負債合計	△777,677 //																																																																		
繰延税金負債の純額	△138,696 //																																																																		
法定実効税率	28.76%																																																																		
(調整)																																																																			
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.02 //																																																																		
土地再評価差額金の取崩	△3.48 //																																																																		
その他	△0.61 //																																																																		
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.69 //																																																																		
当事業年度期首残高	405,566百万円																																																																		
当事業年度契約者配当支払額	121,003 //																																																																		
利息による増加等	8,639 //																																																																		
契約者配当準備金繰入額	97,500 //																																																																		
当事業年度末残高	390,701 //																																																																		
有価証券(国債)	393,315百万円																																																																		
有価証券(外国証券)	4,606 //																																																																		
預貯金	86 //																																																																		
合計	398,008 //																																																																		
債券貸借取引受入担保金	473,284百万円																																																																		

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

(貸借対照表関係)

2015年度末	2016年度末																																																																																								
<p>25 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険に付した部分に相当する支払備金(以下、「出再支払備金」という。)の金額は4百万円です。また、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下、「出再責任準備金」という。)の金額は0百万円です。</p> <p>26 1株当たり純資産額は2,616円50銭です。</p> <p>27 消費貸借契約で借り入れている有価証券のうち、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有し、当事業年度末に当該処分を行わずに所有しているものの時価は226,969百万円であり、担保に差し入れているものはありません。</p> <p>28 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は、32,391百万円です。</p> <p>29 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約借入金283,000百万円が含まれております。</p> <p>30 負債の部の社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された外貨建劣後特約社債215,727百万円が含まれております。</p> <p>31 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当社の今後の負担見積額は、52,002百万円です。なお、当該負担金は拠出した事業年度の事業費として処理しております。</p> <p>32 従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引について、連結財務諸表に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。</p> <p>33 重要な後発事象の注記は次のとおりであります。 当社は、持株会社体制への移行に向けた準備を行っておりますが、2016年4月8日開催の取締役会において、当社が営む国内生命保険事業を、2016年4月1日に設立した当社100%出資の「第一生命分譲準備株式会社(2016年10月1日付で「第一生命保険株式会社」に商号変更予定)」に承継させることを決議し、承継会社との間で吸収分割契約を締結いたしました(以下、「本件吸収分割」という。)。本件吸収分割の効力発生日は、2016年10月1日を予定しております。 本件吸収分割並びに定款変更(商号・事業目的の変更等)の効力発生については、2016年6月24日開催予定の第6期定時株主総会における関連議案の承認及び当局による許認可等が条件となります。 本件吸収分割後の当社は、2016年10月1日付で持株会社となり、「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更するとともに、事業目的をグループ会社の経営管理等に变更する予定です。</p>	<p>④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額の他、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。 (2) 金融商品の時価等に関する事項 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注)2参照。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸借対照表計上額(百万円)</th> <th>時価(百万円)</th> <th>差額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 現金及び預貯金</td> <td>438,454</td> <td>438,454</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>② コールローン</td> <td>98,500</td> <td>98,500</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>③ 買入金銭債権</td> <td>192,213</td> <td>192,213</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>④ 金銭的信託</td> <td>50,191</td> <td>50,191</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>⑤ 有価証券</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  a 売買目的有価証券</td> <td>838,851</td> <td>838,851</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>  b 満期保有目的の債券</td> <td>46,014</td> <td>50,534</td> <td>4,519</td> </tr> <tr> <td>  c 責任準備金対応債券</td> <td>12,001,580</td> <td>14,764,373</td> <td>2,762,792</td> </tr> <tr> <td>  d 子会社・関連会社株式</td> <td>321</td> <td>302</td> <td>△19</td> </tr> <tr> <td>  e その他有価証券</td> <td>16,942,419</td> <td>16,942,419</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>⑥ 貸付金</td> <td>2,657,852</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  貸倒引当金(※1)</td> <td>△808</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,657,043</td> <td>2,798,441</td> <td>141,397</td> </tr> <tr> <td>資産計</td> <td>33,265,591</td> <td>36,174,282</td> <td>2,908,690</td> </tr> <tr> <td>① 社債</td> <td>476,277</td> <td>492,576</td> <td>16,299</td> </tr> <tr> <td>② 借入金</td> <td>283,000</td> <td>288,019</td> <td>5,019</td> </tr> <tr> <td>負債計</td> <td>759,277</td> <td>780,596</td> <td>21,319</td> </tr> <tr> <td>デリバティブ取引(※2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  a ヘッジ会計が適用されていないもの</td> <td>(949)</td> <td>(949)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>  b ヘッジ会計が適用されているもの</td> <td>(156,773)</td> <td>(159,745)</td> <td>△2,972</td> </tr> <tr> <td>デリバティブ取引計</td> <td>(157,722)</td> <td>(160,694)</td> <td>△2,972</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。 (※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。</p> <p>(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項 資 産</p> <p>① 現金及び預貯金 預貯金は、満期までの期間が短いもの及び満期のないものであり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>② コールローン コールローンはすべて満期までの期間が短いため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>③ 買入金銭債権 買入金銭債権は合理的に算定された価額等によっております。</p> <p>④ 金銭的信託 株式は取引所等の価格によっており、債券は取引所等の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、投資信託は、基準価格等によっております。</p> <p>⑤ 有価証券 株式は取引所等の価格によっており、債券は取引所等の価格又は取引金融機関から提示された価格等によっております。また、投資信託は、基準価格等によっております。組合出資金は、組合財産を時価評価できるものには時価評価を行った上、当該財産に対する持分相当額を組合出資金の時価とみなして計上しております。</p> <p>⑥ 貸付金 貸付金は、対象先に新規貸付を行った場合に想定される内部格付・残存期間に応じた利率等で、対象先の将来キャッシュ・フローを割り引いて算定しております。また、リスク管理債権は、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保・保証による回収見込額等に基づいて貸倒引当金を算定しており、時価は貸借対照表計上額から貸倒引当金を控除した金額に近似しているため、当該金額をもって時価としております。 なお、貸付金のうち、当該貸付を担保資産の範囲内に限る等の特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。</p> <p>負 債</p> <p>① 社債 社債は取引所等の価格によっております。</p> <p>② 借入金 借入金は、新規借入を行った場合に想定される内部格付・残存期間に応じた利率で、将来キャッシュ・フローを割り引いて算定しております。</p> <p>デリバティブ取引 デリバティブ取引は、通貨関連取引(為替予約、通貨オプション等)、金利関連取引(金利先物、金利スワップ等)、株式関連取引(円建株価指数先物、外貨建株価指数先物等)、債券関連取引(円建債券先物、外貨建債券先物等)であり、取引所の価格、取引先金融機関から提示された価格等によっております。</p>		貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)	① 現金及び預貯金	438,454	438,454	—	② コールローン	98,500	98,500	—	③ 買入金銭債権	192,213	192,213	—	④ 金銭的信託	50,191	50,191	—	⑤ 有価証券				a 売買目的有価証券	838,851	838,851	—	b 満期保有目的の債券	46,014	50,534	4,519	c 責任準備金対応債券	12,001,580	14,764,373	2,762,792	d 子会社・関連会社株式	321	302	△19	e その他有価証券	16,942,419	16,942,419	—	⑥ 貸付金	2,657,852			貸倒引当金(※1)	△808				2,657,043	2,798,441	141,397	資産計	33,265,591	36,174,282	2,908,690	① 社債	476,277	492,576	16,299	② 借入金	283,000	288,019	5,019	負債計	759,277	780,596	21,319	デリバティブ取引(※2)				a ヘッジ会計が適用されていないもの	(949)	(949)	—	b ヘッジ会計が適用されているもの	(156,773)	(159,745)	△2,972	デリバティブ取引計	(157,722)	(160,694)	△2,972
	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)																																																																																						
① 現金及び預貯金	438,454	438,454	—																																																																																						
② コールローン	98,500	98,500	—																																																																																						
③ 買入金銭債権	192,213	192,213	—																																																																																						
④ 金銭的信託	50,191	50,191	—																																																																																						
⑤ 有価証券																																																																																									
a 売買目的有価証券	838,851	838,851	—																																																																																						
b 満期保有目的の債券	46,014	50,534	4,519																																																																																						
c 責任準備金対応債券	12,001,580	14,764,373	2,762,792																																																																																						
d 子会社・関連会社株式	321	302	△19																																																																																						
e その他有価証券	16,942,419	16,942,419	—																																																																																						
⑥ 貸付金	2,657,852																																																																																								
貸倒引当金(※1)	△808																																																																																								
	2,657,043	2,798,441	141,397																																																																																						
資産計	33,265,591	36,174,282	2,908,690																																																																																						
① 社債	476,277	492,576	16,299																																																																																						
② 借入金	283,000	288,019	5,019																																																																																						
負債計	759,277	780,596	21,319																																																																																						
デリバティブ取引(※2)																																																																																									
a ヘッジ会計が適用されていないもの	(949)	(949)	—																																																																																						
b ヘッジ会計が適用されているもの	(156,773)	(159,745)	△2,972																																																																																						
デリバティブ取引計	(157,722)	(160,694)	△2,972																																																																																						
<p>&lt;本件吸収分割の当事会社の概要&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>分割会社(2016年3月31日現在)</th> <th>承継会社(2016年4月1日現在)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 商号</td> <td>第一生命保険株式会社(注)1</td> <td>第一生命分譲準備株式会社(注)2</td> </tr> <tr> <td>(2) 所在地</td> <td>東京都千代田区有楽町一丁目13番1号</td> <td>東京都千代田区有楽町一丁目13番1号</td> </tr> <tr> <td>(3) 代表者の役職・氏名</td> <td>代表取締役社長 渡邊 光一郎</td> <td>代表取締役 河添 祐司</td> </tr> <tr> <td>(4) 事業内容</td> <td>生命保険業</td> <td>生命保険業の準備に伴う事業等</td> </tr> <tr> <td>(5) 資本金</td> <td>343,146百万円</td> <td>100百万円</td> </tr> <tr> <td>(6) 設立年月日</td> <td>1902年9月15日</td> <td>2016年4月1日</td> </tr> <tr> <td>(7) 発行済株式数</td> <td>1,198,023,000株</td> <td>10株</td> </tr> <tr> <td>(8) 決算期</td> <td>3月31日</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td>(9) 大株主及び特株比率(注)3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)</td> <td>第一生命保険株式会社</td> <td>5.14%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)</td> <td></td> <td>4.02%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>株式会社みずほ銀行</td> <td></td> <td>3.77%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)</td> <td></td> <td>3.60%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL</td> <td></td> <td>2.64%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(10) 直前事業年度の財政状態及び経営成績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016年3月期(連結)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>純資産</td> <td>2,932,959百万円</td> </tr> <tr> <td>総資産</td> <td>49,924,922百万円</td> </tr> <tr> <td>1株当たり純資産額</td> <td>2,472円86銭</td> </tr> <tr> <td>経常収益</td> <td>7,333,947百万円</td> </tr> <tr> <td>経常利益</td> <td>418,166百万円</td> </tr> <tr> <td>親会社株主に帰属する当期純利益</td> <td>178,515百万円</td> </tr> <tr> <td>1株当たり当期純利益金額</td> <td>150円53銭</td> </tr> </tbody> </table>		分割会社(2016年3月31日現在)	承継会社(2016年4月1日現在)	(1) 商号	第一生命保険株式会社(注)1	第一生命分譲準備株式会社(注)2	(2) 所在地	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 渡邊 光一郎	代表取締役 河添 祐司	(4) 事業内容	生命保険業	生命保険業の準備に伴う事業等	(5) 資本金	343,146百万円	100百万円	(6) 設立年月日	1902年9月15日	2016年4月1日	(7) 発行済株式数	1,198,023,000株	10株	(8) 決算期	3月31日	3月31日	(9) 大株主及び特株比率(注)3				日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	第一生命保険株式会社	5.14%	100%		BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)		4.02%			株式会社みずほ銀行		3.77%			日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)		3.60%			GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL		2.64%			2016年3月期(連結)	純資産	2,932,959百万円	総資産	49,924,922百万円	1株当たり純資産額	2,472円86銭	経常収益	7,333,947百万円	経常利益	418,166百万円	親会社株主に帰属する当期純利益	178,515百万円	1株当たり当期純利益金額	150円53銭	<p>(注) 1 分割会社は、2016年10月1日付で「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更予定。 2 承継会社は、2016年10月1日付で「第一生命保険株式会社」に商号変更予定。 3 特株比率は発行済株式の総数から自己株式(6,878千株)を控除して算定。</p>																	
	分割会社(2016年3月31日現在)	承継会社(2016年4月1日現在)																																																																																							
(1) 商号	第一生命保険株式会社(注)1	第一生命分譲準備株式会社(注)2																																																																																							
(2) 所在地	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号																																																																																							
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 渡邊 光一郎	代表取締役 河添 祐司																																																																																							
(4) 事業内容	生命保険業	生命保険業の準備に伴う事業等																																																																																							
(5) 資本金	343,146百万円	100百万円																																																																																							
(6) 設立年月日	1902年9月15日	2016年4月1日																																																																																							
(7) 発行済株式数	1,198,023,000株	10株																																																																																							
(8) 決算期	3月31日	3月31日																																																																																							
(9) 大株主及び特株比率(注)3																																																																																									
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	第一生命保険株式会社	5.14%	100%																																																																																					
	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)		4.02%																																																																																						
	株式会社みずほ銀行		3.77%																																																																																						
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)		3.60%																																																																																						
	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL		2.64%																																																																																						
	2016年3月期(連結)																																																																																								
純資産	2,932,959百万円																																																																																								
総資産	49,924,922百万円																																																																																								
1株当たり純資産額	2,472円86銭																																																																																								
経常収益	7,333,947百万円																																																																																								
経常利益	418,166百万円																																																																																								
親会社株主に帰属する当期純利益	178,515百万円																																																																																								
1株当たり当期純利益金額	150円53銭																																																																																								

(貸借対照表関係)

2016年度末

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産 ⑤ 有価証券」には含まれておりません。

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
① 非上場国内株式(※1)(※2)	139,205
② 非上場外国株式(※1)(※2)	20,604
③ 外国その他証券(※1)(※2)	436,700
④ その他の証券(※1)(※2)	72,404
合計	668,914

(※1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。  
(※2) 当事業年度において、66百万円減損処理を行っております。

18 当社は、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等(土地を含む)を有しております。2017年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は17,175百万円(賃貸収益は資産運用収益に、主な賃貸費用は資産運用費用に計上)、売却損益は△8,187百万円(特別損益に計上)、減損損失は2,426百万円(特別損失に計上)であります。  
また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額			期末時価 (百万円)
期首残高 (百万円)	期中増減額 (百万円)	期末残高 (百万円)	
—	795,164	795,164	892,854

(注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2 期中増減額のうち、主な増加額は第一生命ホールディングス株式会社からの承継額(815,927百万円)、不動産取得(12,404百万円)であり、主な減少額は不動産売却(28,778百万円)、減価償却費(6,784百万円)及び減損損失(2,426百万円)であります。  
3 期末時価は、主要な物件については不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額、その他の物件については自社において合理的に見積った評価額等を使用しております。

19 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表価額は、1,807,980百万円であります。

20 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3か月以上延滞債権及び貸付条件緩和債権の額は、2,703百万円あります。なお、それぞれの内訳は次のとおりであります。  
貸付金のうち、破綻先債権額は89百万円、延滞債権額は2,608百万円、3か月以上延滞債権額はあります。貸付条件緩和債権額は5百万円あります。  
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。  
延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。  
3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。  
貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。  
7にあげた取立不能見込額の直接減額により、破綻先債権額は2百万円、延滞債権額は53百万円それぞれ減少しております。

21 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定の資産の額は、1,096,578百万円あります。なお、負債の額も同額であります。

22 関係会社に対する金銭債権の総額は1,466百万円、金銭債務の総額は5,316百万円あります。

23 税効果会計に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生する主な原因別の内訳

繰延税金資産	
保険契約準備金	450,261百万円
退職給付引当金	130,433 //
価格変動準備金	45,935 //
減損損失	11,652 //
有価証券評価損	6,489 //
その他	23,232 //
繰延税金資産小計	668,005 //
評価性引当額	△13,808 //
繰延税金資産合計	654,196 //
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△750,808百万円
不動産圧縮積立金	△10,272 //
未収株式配当金	△7,818 //
その他	△15,131 //
繰延税金負債合計	△784,030 //
繰延税金負債の純額	△129,833 //

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	28.16%
(調整)	
評価性引当額の減少	△8.53 //
その他	△0.44 //
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.19%

24 他の会社の金融機関からの借入債務に対する保証予約は次のとおりであります。  
第一生命ホールディングス株式会社 450,000百万円

25 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

当事業年度期首残高	—	百万円
第一生命ホールディングス株式会社からの承継額	383,071	//
当事業年度契約者配当金支払額	41,342	//
利息による増加等	4,156	//
契約者配当準備金繰入額	40,000	//
当事業年度末残高	385,884	//

26 関係会社の株式等は、59,073百万円あります。

27 保険業法第91条の規定による組織変更剰余金額は、117,776百万円あります。

28 担保に供している資産は次のとおりであります。

有価証券	333,839百万円
預貯金	86 //
合計	333,926 //

担保付き債務の額は次のとおりであります。  
債券貸借取引受入担保金 267,871百万円  
なお、上記有価証券には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券241,062百万円が含まれております。

29 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険に付した部分に相当する支払備金(以下、「出再支払備金」という。)の金額は6百万円あります。また、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下、「出再責任準備金」という。)の金額は0百万円あります。

30 1株当たり純資産額は413,604,802円16銭であります。

31 共通支配下の取引等に関する事項は次のとおりであります。

(1) 取引の概要

① 対象となった事業の名称及びその事業の内容

国内生命保険事業

② 企業結合日

2016年10月1日

③ 企業結合の法的形式

当社の親会社である第一生命ホールディングス株式会社(2016年10月1日付で「第一生命保険株式会社」から商号変更)を分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割

④ 結合後企業の名称

第一生命保険株式会社

⑤ その他取引の概要に関する事項

これまで当社の親会社である第一生命ホールディングス株式会社では、国内生命保険市場でのシェア拡大に向けた成長戦略を展開するとともに、海外生命保険市場における事業展開の加速・利益貢献の拡大を行い、内外事業の複線化が進みました。これらの環境・課題認識から、2016年10月1日に持株会社体制に移行し、「グループベースでの柔軟な経営資源配分」、「傘下会社での迅速な意思決定に資するガバナンス体制の構築」、「グループ運営スタイルの抜本的変革」を通じて、当社グループの持続的な成長に向けた取組みを更に加速します。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

32 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、営業職等については、確定給付型の制度として退職一時金制度及び自社年金制度を設けております。

内勤職等については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	—	百万円
第一生命ホールディングス株式会社からの承継額	692,315	//
勤務費用	14,617	//
利息費用	1,040	//
数理計算上の差異の当期発生額	2,235	//
退職給付の支払額	△16,495	//
その他	106	//
期末における退職給付債務	693,819	//

② 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	—	百万円
第一生命ホールディングス株式会社からの承継額	264,260	//
期待運用収益	187	//
数理計算上の差異の当期発生額	17,685	//
事業主からの拠出額	7,080	//
退職給付の支払額	△3,905	//
期末における年金資産	285,308	//

(貸借対照表関係)

2016年度末

③ 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表	
積立型制度の退職給付債務	383,234百万円
年金資産	△285,308 //
	97,925 //
非積立型制度の退職給付債務	310,585 //
未認識数理計算上の差異	△27,640 //
退職給付引当金	380,870 //
④ 退職給付に関連する損益	
勤務費用	14,617百万円
利息費用	1,040 //
期待運用収益	△187 //
数理計算上の差異の当期の費用処理額	2,266 //
その他	299 //
確定給付制度に係る退職給付費用	18,035 //
⑤ 年金資産の主な内訳	
年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。	
株式	58%
共同運用資産	12 //
債券	9 //
生命保険一般勘定	8 //
その他	13 //
合計	100 //
なお、年金資産合計には、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が55%含まれております。	
⑥ 長期期待運用収益率の設定方法	
年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。	
⑦ 数理計算上の計算基礎に関する事項	
期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。	
割引率	0.30%
長期期待運用収益率	
確定給付企業年金	0.30%
退職給付信託	0.00%
(3) 確定拠出制度	
当社の確定拠出制度への要拠出額は、781百万円であります。	

33 消費貸借契約で借り入れている有価証券のうち、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有し、当事業年度末に当該処分を行わずに所有しているものの時価は37,642百万円であり、担保に差し入れているものはありません。

34 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は、33,002百万円であります。

35 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金283,000百万円が含まれております。

36 負債の部の社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された外貨建劣後特約付社債476,277百万円が含まれております。

37 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当社の今後の負担見積額は、49,711百万円であります。なお、当該負担金は拠出した事業年度の事業費として処理しております。

参考情報

以下に関しては、旧第一生命と分科準備会社及び現第一生命の合算値 (A + B + C) を記載しております。  
 (「本資料の記載数値について」参照)

(貸借対照表の注記)

1 当社は、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等 (土地を含む。) を有しております。2017年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は31,572百万円 (賃貸収益は資産運用収益に、主な賃貸費用は資産運用費用に計上。)、売却損益は△8,593百万円 (特別損益に計上。)、減損損失は5,167百万円 (特別損失に計上。) であります。  
 また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額			期末時価 (百万円)
期首残高 (百万円)	期中増減額 (百万円)	期末残高 (百万円)	
807,289	△12,124	795,164	892,854

(注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
 2 期中増減額のうち、主な増加額は不動産取得 (33,544百万円) であり、主な減少額は不動産売却 (35,424百万円)、減価償却費 (13,758百万円) 及び減損損失 (5,167百万円) であります。  
 3 期末時価は、主要な物件については不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額、その他の物件については自社において合理的に見積った評価額等を使用しております。

2 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

当事業年度期首残高	390,701百万円
当事業年度契約者配当金支払額	98,201 //
利息による増加等	8,384 //
契約者配当準備金繰入額	85,000 //
当事業年度末残高	385,884 //

3 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要  
 当社は、営業職等については、確定給付型の制度として退職一時金制度及び自社年金制度を設けております。  
 内勤職等については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

① 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

期首における退職給付債務	694,154百万円
勤務費用	28,941 //
利息費用	2,080 //
数理計算上の差異の当期発生額	2,235 //
退職給付の支払額	△32,402 //
その他	△1,188 //
期末における退職給付債務	693,819 //

② 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	268,370百万円
期待運用収益	374 //
数理計算上の差異の当期発生額	17,685 //
事業主からの拠出額	7,080 //
退職給付の支払額	△8,202 //
期末における年金資産	285,308 //

③ 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	383,234百万円
年金資産	△285,308 //
	97,925 //
非積立型制度の退職給付債務	310,585 //
未認識数理計算上の差異	△27,640 //
退職給付引当金	380,870 //

④ 退職給付に関連する損益

勤務費用	28,941百万円
利息費用	2,080 //
期待運用収益	△374 //
数理計算上の差異の当期の費用処理額	4,533 //
その他	299 //
確定給付制度に係る退職給付費用	35,479 //

⑤ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	58%
共同運用資産	12 //
債券	9 //
生命保険一般勘定	8 //
その他	13 //
合計	100 //

なお、年金資産合計には、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が55%含まれております。

⑥ 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑦ 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

割引率	0.30%
長期期待運用収益率	
確定給付企業年金	0.30%
退職給付信託	0.00%

(3) 確定拠出制度  
 当社の確定拠出制度への要拠出額は、1,573百万円であります。

(損益計算書関係)

2015年度	2016年度														
<p>1 関係会社との取引による収益の総額は、23,361百万円、費用の総額は、21,856百万円です。</p> <p>2 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券6,598百万円、株式等38,011百万円、外国証券166,611百万円、その他の証券698百万円です。 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券464百万円、株式等5,017百万円、外国証券54,989百万円、その他の証券1,987百万円です。 有価証券評価損の主な内訳は、株式等178百万円、外国証券695百万円です。</p> <p>3 支払備金繰入額の計算上、足上げられた出再支払備金戻入額の金額は13百万円です。責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は0百万円です。</p> <p>4 「金銭の信託運用損」には、評価損が4,459百万円含まれております。</p> <p>5 「金融派生商品費用」には、評価損が22,643百万円含まれております。</p> <p>6 1株当たり当期純利益金額は108円88銭であります。 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は108円81銭であります。</p>	<p>1 関係会社との取引による収益の総額は、2,788百万円、費用の総額は、11,926百万円です。</p> <p>2 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券60,514百万円、株式等26,251百万円、外国証券23,571百万円、その他の証券86百万円です。 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券8,048百万円、株式等8,144百万円、外国証券42,702百万円、その他の証券969百万円です。 有価証券評価損の主な内訳は、株式等15,244百万円、外国証券62百万円です。</p> <p>3 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は2百万円です。責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は0百万円です。</p> <p>4 「金銭の信託運用益」には、評価益が3,838百万円含まれております。</p> <p>5 「金融派生商品費用」には、評価損が25,302百万円含まれております。</p> <p>6 1株当たり当期純利益金額は10,776,077円48銭です。 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため、記載していません。</p> <p>7 当社の固定資産の減損損失に関する事項は、次のとおりです。</p> <p>(1) 資産をグループ化した方法 保険事業等の用に供している不動産等については、保険事業等全体で1つの資産グループとしております。また、保険事業等の用に供していない賃貸不動産等及び遊休不動産等については、物件ごとに1つの資産グループとしております。</p> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 一部の資産グループに著しい収益性の低下又は時価の下落が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>(3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳</p> <table border="1" data-bbox="837 862 1396 952"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">場所</th> <th rowspan="2">件数 (件)</th> <th colspan="2">種類 (百万円)</th> <th rowspan="2">合計 (百万円)</th> </tr> <tr> <th>土地</th> <th>建物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休不動産等</td> <td>神奈川県 横浜市等</td> <td>26</td> <td>1,730</td> <td>708</td> <td>2,438</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 回収可能価額の算定方法 回収可能価額は、賃貸不動産等については物件により使用価値又は正味売却価額を、遊休不動産等については正味売却価額を適用しております。なお、使用価値については将来キャッシュ・フローを2.41%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額については売却見込額、不動産鑑定評価基準に基づく評価額、固定資産税評価額又は相続税評価額に基づく時価を使用しております。</p> <p><b>参考情報</b> 以下に関しては、旧第一生命と分割準備会社及び現第一生命の合算値 (A + B + C) を記載しております。 (「本資料の記載数値について」参照)</p>	用途	場所	件数 (件)	種類 (百万円)		合計 (百万円)	土地	建物	遊休不動産等	神奈川県 横浜市等	26	1,730	708	2,438
用途	場所				件数 (件)	種類 (百万円)		合計 (百万円)							
		土地	建物												
遊休不動産等	神奈川県 横浜市等	26	1,730	708	2,438										
	<p>1 関係会社との取引による収益の総額は、12,849百万円、費用の総額は、22,861百万円です。</p> <p>2 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券108,873百万円、株式等29,609百万円、外国証券60,701百万円、その他の証券874百万円です。 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券8,311百万円、株式等12,105百万円、外国証券68,907百万円、その他の証券1,842百万円です。 有価証券評価損の主な内訳は、国債等債券589百万円、株式等15,587百万円、外国証券8,637百万円です。</p> <p>3 支払備金戻入額の計算上、足上げられた出再支払備金繰入額の金額は1百万円です。責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は0百万円です。</p> <p>4 「金銭の信託運用益」には、評価益が2,121百万円含まれております。</p> <p>5 「金融派生商品費用」には、評価損が2,555百万円含まれております。</p> <p>6 当社の固定資産の減損損失に関する事項は、次のとおりです。</p> <p>(1) 資産をグループ化した方法 保険事業等の用に供している不動産等については、保険事業等全体で1つの資産グループとしております。また、保険事業等の用に供していない賃貸不動産等及び遊休不動産等については、物件ごとに1つの資産グループとしております。</p> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 一部の資産グループに著しい収益性の低下又は時価の下落が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>(3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳</p> <table border="1" data-bbox="837 1825 1396 1915"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">場所</th> <th rowspan="2">件数 (件)</th> <th colspan="2">種類 (百万円)</th> <th rowspan="2">合計 (百万円)</th> </tr> <tr> <th>土地</th> <th>建物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休不動産等</td> <td>神奈川県 横浜市等</td> <td>135</td> <td>8,622</td> <td>5,119</td> <td>13,742</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 回収可能価額の算定方法 回収可能価額は、賃貸不動産等については物件により使用価値又は正味売却価額を、遊休不動産等については正味売却価額を適用しております。なお、使用価値については将来キャッシュ・フローを2.41%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額については売却見込額、不動産鑑定評価基準に基づく評価額、固定資産税評価額又は相続税評価額に基づく時価を使用しております。</p>	用途	場所	件数 (件)	種類 (百万円)		合計 (百万円)	土地	建物	遊休不動産等	神奈川県 横浜市等	135	8,622	5,119	13,742
用途	場所				件数 (件)	種類 (百万円)		合計 (百万円)							
		土地	建物												
遊休不動産等	神奈川県 横浜市等	135	8,622	5,119	13,742										

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況



## (キャッシュ・フロー計算書関係)

2015年度	2016年度
	1 キャッシュ・フロー計算書における「現金及び現金同等物」の範囲は、貸借対照表上の「現金及び預貯金」、「コールローン」、「買入金銭債権」のうちコマーシャル・ペーパー、「有価証券」のうちMMF及び「借入金」のうち当座借越（負の現金同等物）であります。 2 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預貯金 438,454百万円 コールローン 98,500 // 現金及び現金同等物 536,954 //

## (株主資本等変動計算書関係)

2015年度					2016年度				
1 自己株式の種類及び株式数に関する事項					1 発行済株式の種類及び総数に関する事項				
	当事業年度 期首株式数 (千株)	当事業年度 増加株式数 (千株)	当事業年度 減少株式数 (千株)	当事業年度末 株式数 (千株)		当事業年度 期首株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
自己株式 普通株式	6,518	6,878	1,028	12,368	発行済株式 普通株式	10	5,990	—	6,000
(注) 1 当事業年度期首及び当事業年度末の普通株式の自己株式数には、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式がそれぞれ、6,518千株、5,490千株含まれております。 2 普通株式の自己株式の株式数の増加6,878千株は、自己株式の取得によるものであります。 3 普通株式の自己株式の株式数の減少1,028千株は、信託口から対象者へ給付した当社株式及び第一生命保険従業員持株会専用信託が第一生命保険従業員持株会に売却した当社株式の合計であります。					(注) 2016年10月1日より持株会社体制へ移行したため、第一生命ホールディングス株式会社(2016年10月1日付で「第一生命保険株式会社」から商号変更)の国内生命保険事業を会社分割により承継しております。この結果、普通株式の発行済株式の株式数が5,990株増加し、当事業年度末において6,000株となっております。 2 配当に関する事項 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの				
	決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力 発生日	配当の原資		
	2017年 6月21日 定時株主総会	普通株式	29,972	4,995,400	2017年 3月31日	2017年 6月22日	利益剰余金		

## (8) 内部統制報告書

当社は、2016年度の財務報告に係る内部統制の有効性を評価した内部統制報告書を作成しています。

<p>内部統制報告書</p> <p style="text-align: right;">2017年5月30日</p> <p style="text-align: right;">第一生命保険株式会社 代表取締役社長 稲垣 精二</p> <p>1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】</p> <p>代表取締役社長稲垣精二は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。</p> <p>なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全に防止又は発見することができない可能性がある。</p> <p>2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】</p> <p>財務報告に係る内部統制の評価は、保険業法第110条第1項の規定に基づき作成した貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記を「財務報告」とし、当事業年度の末日である2017年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。</p> <p>本評価においては、財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。</p> <p>財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社について、財務報告の信頼性及び影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性及び影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、法的な組織区分を細分化して識別した事業拠点の当事業年度の経常収益の金額が高い拠点から合算していき、当事業年度の経常収益の概ね2/3に達するまでの事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として責任準備金、有価証券及び貸付金（うち一般貸付）に至る業務プロセスを評価の対象とした。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加している。</p> <p>3 【評価結果に関する事項】</p> <p>上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。</p> <p>4 【付記事項】</p> <p>該当事項なし。</p> <p>5 【特記事項】</p> <p>当社は、金融商品取引法第24条の4の第1項及び第2項の適用はないが、生命保険事業の社会性・公共性から内部統制報告制度の基本的な考え方に基づき、自発的に内部統制報告書を作成している。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--

## (9) 財務諸表及び内部統制報告書についての会計監査人の監査報告（任意監査）

当社は、2016年度の財務諸表及び内部統制報告書について新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

## (10) 会社法に基づく会計監査人の監査報告

当社は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、2016年度の計算書類等について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

## (11) 金融商品取引法に基づく監査法人の監査証明

該当事項はありません。

(注) 当誌では、監査対象となった財務諸表の内容をより理解いただけるよう、当社の判断に基づき、財務諸表の記載内容を一部追加・変更するとともに、様式を一部変更して記載しております。

## (12) 財務諸表の適正性に関する確認書

当社代表者は、2016年度の財務諸表の適正性を確認しています。

確 認 書
2017年5月30日
第一生命保険株式会社 代表取締役社長 稲垣 精二
私は、保険業法第110条第1項の規定に基づき作成した当社の2017年3月期の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書及び株主資本等変動計算書（以下、「財務諸表」という。）に記載した事項について確認したところ、すべての重要な点において、適正に表示されていることを確認いたしました。
以 上

- (13) 事業年度の末日において、保険会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他保険会社の経営に重要な影響を及ぼす事象該当事項はありません。

# 〈有価証券等の時価情報（会社計）〉

## （1）有価証券等の時価情報（会社計）

### ① 売買目的有価証券の評価損益

（単位：百万円）

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	892,868	△113,091	889,043	10,481
一般勘定	50,166	△4,459	50,191	2,122
特別勘定	842,702	△108,631	838,851	8,359

（注）本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

### ② 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）

（単位：百万円）

区 分	2015年度末					2016年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
公社債	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	12,027,685	15,449,932	3,422,247	3,422,586	339	12,001,580	14,764,373	2,762,792	2,782,071	19,278
公社債	11,948,259	15,369,411	3,421,152	3,421,152	—	11,911,257	14,672,992	2,761,734	2,780,815	19,081
外国公社債	79,425	80,520	1,095	1,434	339	90,322	91,380	1,058	1,255	197
子会社・関連会社株式	26,570	61,653	35,082	35,101	18	304	302	△2	7	10
その他有価証券	12,927,650	15,628,568	2,700,917	2,874,655	173,738	14,459,160	17,184,631	2,725,470	2,865,886	140,416
公社債	3,782,592	4,378,846	596,253	596,857	603	3,617,249	4,094,982	477,733	485,227	7,493
株式	1,677,678	2,990,485	1,312,806	1,409,264	96,457	1,647,671	3,335,538	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	6,759,695	7,526,318	766,622	830,252	63,629	8,443,706	8,964,471	520,764	625,317	104,552
公社債	6,150,829	6,828,492	677,663	714,258	36,594	7,776,125	8,169,860	393,734	488,696	94,961
株式等	608,865	697,825	88,959	115,994	27,035	667,581	794,611	127,030	136,621	9,591
その他の証券	484,658	497,071	12,412	25,441	13,028	514,139	547,427	33,288	36,687	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—
合 計	25,027,619	31,191,450	6,163,830	6,337,926	174,095	26,507,060	31,999,841	5,492,780	5,652,485	159,704
公社債	15,776,565	19,799,554	4,022,989	4,023,592	603	15,574,521	18,818,509	3,243,987	3,270,562	26,575
株式	1,677,678	2,990,485	1,312,806	1,409,264	96,457	1,647,671	3,335,538	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	6,864,951	7,667,606	802,655	866,642	63,987	8,534,167	9,055,980	521,813	626,573	104,759
公社債	6,230,255	6,909,013	678,758	715,692	36,933	7,866,447	8,261,240	394,793	489,951	95,158
株式等	634,695	758,592	123,896	150,950	27,053	667,719	794,739	127,020	136,621	9,601
その他の証券	485,399	497,958	12,558	25,587	13,028	514,306	547,601	33,295	36,694	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—

（注）本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

### ・満期保有目的の債券

（単位：百万円）

区 分	2015年度末			2016年度末		
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	45,712	51,296	5,583	46,014	50,534	4,519
公社債	45,712	51,296	5,583	46,014	50,534	4,519
外国証券	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	—	—	—	—	—	—
公社債	—	—	—	—	—	—
外国証券	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—

・責任準備金対応債券

(単位：百万円)

区 分	2015年度末			2016年度末		
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	12,002,775	15,425,362	3,422,586	11,620,177	14,402,249	2,782,071
公社債	11,948,259	15,369,411	3,421,152	11,555,963	14,336,779	2,780,815
外国証券	54,516	55,950	1,434	64,213	65,469	1,255
その他	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	24,909	24,570	△339	381,402	362,124	△19,278
公社債	—	—	—	355,294	336,212	△19,081
外国証券	24,909	24,570	△339	26,108	25,911	△197
その他	—	—	—	—	—	—

・その他有価証券

(単位：百万円)

区 分	2015年度末			2016年度末		
	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えるもの	10,892,784	13,767,440	2,874,655	10,484,887	13,350,774	2,865,886
公社債	3,754,851	4,351,709	596,857	3,217,953	3,703,180	485,227
株式	1,208,765	2,618,029	1,409,264	1,451,271	3,163,836	1,712,564
外国証券	5,515,955	6,346,208	830,252	5,259,559	5,884,876	625,317
公社債	5,241,060	5,955,318	714,258	4,749,010	5,237,706	488,696
株式等	274,895	390,890	115,994	510,549	647,170	136,621
その他の証券	192,787	218,228	25,441	386,291	422,978	36,687
買入金銭債権	217,836	230,624	12,787	169,811	175,901	6,090
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
金銭の信託	2,587	2,640	52	—	—	—
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えないもの	2,034,866	1,861,127	△173,738	3,974,273	3,833,856	△140,416
公社債	27,740	27,137	△603	399,296	391,802	△7,493
株式	468,913	372,455	△96,457	196,399	171,701	△24,698
外国証券	1,243,739	1,180,110	△63,629	3,184,147	3,079,594	△104,552
公社債	909,769	873,174	△36,594	3,027,115	2,932,153	△94,961
株式等	333,970	306,935	△27,035	157,032	147,440	△9,591
その他の証券	291,871	278,842	△13,028	127,847	124,448	△3,398
買入金銭債権	2,600	2,582	△17	16,582	16,311	△270
譲渡性預金	—	—	—	50,000	49,998	△1
金銭の信託	—	—	—	—	—	—

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国公社債	—	—
その他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	1,100,671	58,751
非上場国内株式 (店頭売買株式を除く)	236,944	12,684
非上場外国株式 (店頭売買株式を除く)	783,945	—
その他	79,781	46,067
その他有価証券	813,855	611,909
非上場国内株式 (店頭売買株式を除く)	126,122	126,521
非上場外国株式 (店頭売買株式を除く)	665,001	459,050
非上場外国公社債	—	—
その他	22,731	26,337
合 計	1,914,526	670,660

(注) 1.本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。  
2.時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券のうち、外国証券の為替を評価した差損益は以下のとおりです。  
(2015年度末：48,179百万円、2016年度末：△1,746百万円)

## (2) 金銭の信託の時価情報 (会社計)

(単位：百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	貸借対照 表計上額	時価	差損益	差益		貸借対照 表計上額	時価	差損益	差益	
				差益	差損				差益	差損
金銭の信託	52,806	52,806	△4,407	7,143	11,551	50,191	50,191	2,024	17,996	15,971

(注) 1.本表記載の時価相当額の算定は、金銭の信託の受託者が合理的に算定した価格によっています。  
2.差損益には金銭の信託内で設定しているデリバティブ取引に係る差損益も含まれています。

## ・運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	50,166	△4,459	50,191	2,122

## ・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益		帳簿価額	時価	差損益	差益	
				差益	差損				差益	差損
満期保有目的の 金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応の 金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—

### (3) デリバティブ取引の運用状況

当社では、有価証券投資に係る市場リスクのヘッジを目的とした有価証券関連のデリバティブ取引、外貨建資産等に係る為替リスクのヘッジを目的とした通貨関連のデリバティブ取引、貸付金の収益及び借入金の費用の安定を目的とした金利スワップ関連取引等を行っております。

当社が利用しているデリバティブ取引には、現物資産等と同様に市場リスク（金利・為替等市場の変動が収益に影響を及ぼすリスク）と信用リスク（取引相手が倒産等により契約不履行に陥るリスク）があります。例えば、金利スワップ取引では、金利の変動による市場リスクだけでなく、取引相手のデフォルトによる信用リスクも認識する必要があります。

また、一般的に、デリバティブ取引には、流動性の高さ、取引コストの低さ、リスク特性の変更が可能であること等の利点がある一方で、レバレッジ、商品特性等に起因する現物資産等にはないリスクも存在していることに留意し、きめ細かな管理を行う必要があると考えております。

#### ①取引の内容

2016年度に当社が利用していたデリバティブ取引は以下の通りです。

- ・金利関連：金利先物取引、金利スワップ取引、金利スワップオプション取引
- ・通貨関連：為替予約取引、通貨オプション取引、通貨スワップ取引
- ・株式関連：株価指数先物取引、株価指数オプション取引、株式先渡取引
- ・債券関連：債券先物取引、債券先物オプション取引、債券オプション取引、債券先渡取引
- ・その他：クレジット・デフォルト・スワップ取引

#### ②取組方針

当社では、保有資産の残高を踏まえ、必要な範囲内でデリバティブ取引を用いることとし、主に保有している現物資産等に係る市場リスクのヘッジを目的とした取引を行っております。従って、投機的なデリバティブ取引は行わない方針です。

#### ③デリバティブ取引に対するヘッジ会計の適用

当社では、2016年度において、以下の取引についてヘッジ会計を適用しております。

- ・貸付金・借入金・保険負債をヘッジ対象、金利スワップをヘッジ手段とする取引
- ・国内株式をヘッジ対象、株式先渡をヘッジ手段とする取引
- ・外貨建債券・外貨建定期預金・外貨建株式をヘッジ対象、為替予約をヘッジ手段とする取引
- ・外貨建債券をヘッジ対象、外貨建債券オプションをヘッジ手段とする取引
- ・外貨建債券・外貨建社債（負債）・外貨建貸付金をヘッジ対象、通貨スワップをヘッジ手段とする取引

ヘッジ会計の適用にあたっては、「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」等における適用要件を満たすため、方針文書・規程等を整備するとともに、これらの方針・規程等に基づき、ヘッジ対象のリスクの種類及び選択したヘッジ手段を明確にし、また事前有効性の確認、事後有効性の検証を行う等、社内体制を整備して運営しております。

### ④リスク管理体制

当社では、デリバティブ取引について、ヘッジ対象の現物資産等と一体で日々の損益を管理するとともに、ポジション等に係るリスク・リミットの設定やトラッキング・エラー（保有資産のリターンとベンチマークのリターンとの乖離の大きさを示す指標）、バリュエーション・リスク（VaR：最大損失予想額）等の定期的な測定等により、厳正な市場リスク管理を行っております。

一方、取引所取引以外の店頭（相対）のデリバティブ取引における信用リスクについては、取引の相手先ごとに取引の上限枠を設定すること等により管理を行っております。なお、2016年度末の店頭デリバティブ取引の信用リスク相当額（カレント・エクスポージャー方式による再構築コスト）は次表の通りです。

（単位：億円）

区 分	2015年度末		2016年度末	
	契約金額・ 想定元本額	信用リスク 相当額	契約金額・ 想定元本額	信用リスク 相当額
金利スワップ	6,091	47	9,500	93
金利スワップオプション	16,000	155	15,000	46
為替予約	62,986	812	76,833	420
通貨オプション	2,987	14	6,153	85
通貨スワップ	4,549	140	7,809	638
債券オプション	4,022	47	3,610	27
株式先渡契約	200	4	262	27
クレジット・デフォルト・スワップ	245	2	393	12
合 計	97,083	1,224	119,564	1,352

資産運用におけるリスク管理に関しては、これらのデリバティブ取引も含めて、社内規程を策定し、リスク管理の基本方針・具体的取組内容を明確に定めております。デリバティブ取引に関するリスク管理は、担当所管において厳格に行うとともに、全体のリスクの状況については、リスク管理の専門組織である「リスク管理統括部」が一元的に把握し、「ERM委員会」等に定期的に報告しており、リスクのコントロールには細心の注意を払っております。

#### ⑤定量的情報に関する補足説明

当社のデリバティブ取引は、主に保有している現物資産等に係る市場リスクのヘッジを目的としていることから、デリバティブ取引自体の想定元本額（契約額）や含み損益額に加えて、ヘッジ対象である現物資産等の状況を勘案することにより的確に状況が把握できます。

すなわち、デリバティブ取引の契約額等をヘッジ対象の現物資産等の残高と合わせて見ることによって、現物資産等のうちの程度がデリバティブ取引によってヘッジされているのか、また、デリバティブ取引の含み損益をヘッジ対象の現物資産等の含み損益と合わせて見ることによって、デリバティブ取引で市場の変化による運用収益の変動がどの程度回避されているのか、等がわかります。

#### (4) デリバティブ取引の時価情報 (会社)

##### ① 差損益の内訳 (ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末						2016年度末					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	△3,540	107,571	194	△3,276	—	100,948	△23,531	△136,742	1,246	△717	—	△159,745
ヘッジ会計非適用分	△11,407	△601	△6,255	△472	529	△18,207	△14,517	△10,473	△2,767	888	554	△26,316
合 計	△14,948	106,969	△6,060	△3,748	529	82,740	△38,049	△147,216	△1,521	171	554	△186,061

(注) 上表のうち損益計算書に計上されている金額は以下のとおりです。

2015年度末: ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益 (通貨関連108,459百万円、株式関連194百万円) 及びヘッジ会計非適用分の差損益 (△18,207百万円) の合計90,445百万円  
 2016年度末: ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益 (通貨関連△140,284百万円、株式関連1,246百万円) 及びヘッジ会計非適用分の差損益 (△26,316百万円) の合計△165,354百万円

##### ②ヘッジ会計が適用されていないもの

###### (a) 金利関連

(単位: 百万円)

区 分	種 類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
		うち1年超				うち1年超			
店頭	金利スワップ								
	固定金利受取/変動金利支払	308,140	308,140	△119	△119	170	—	1	1
	固定金利支払/変動金利受取	2,200	2,200	△232	△232	44,100	44,100	71	71
	金利スワップション								
	売建								
	固定金利支払/変動金利受取	350,000	350,000	983	689	350,000	—	67	1,604
	(1,672)	(1,672)			(1,672)	(—)			
	買建								
固定金利受取/変動金利支払	100,000	—	2,760	303	—	(—)	—	—	
(2,457)	(—)			(—)	(—)				
固定金利支払/変動金利受取	1,150,000	1,070,000	6,521	△12,048	1,150,000	855,000	2,019	△16,194	
(18,570)	(17,647)			(18,214)	(14,947)				
合 計				△11,407				△14,517	

(注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

2. 差損益欄には、スワップ取引については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。

##### (参考) 金利スワップ残存期間別残高

(単位: 百万円、%)

区 分	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合計
2015年度末	受取側固定スワップ想定元本	—	340	—	7,800	—	308,140
	平均受取固定金利	—	1.23	—	0.71	—	0.52
	平均支払変動金利	—	0.01	—	0.06	—	0.01
	支払側固定スワップ想定元本	—	—	—	—	—	2,200
	平均支払固定金利	—	—	—	—	—	1.08
	平均受取変動金利	—	—	—	—	—	0.02
合 計	—	340	—	7,800	—	302,200	310,340
2016年度末	受取側固定スワップ想定元本	170	—	—	—	—	170
	平均受取固定金利	1.23	—	—	—	—	1.23
	平均支払変動金利	0.03	—	—	—	—	0.03
	支払側固定スワップ想定元本	—	43,000	—	—	—	1,100
	平均支払固定金利	—	△0.13	—	—	—	1.08
	平均受取変動金利	—	0.01	—	—	—	0.03
合 計	170	43,000	—	—	—	1,100	44,270



## (b) 通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末			2016年度末		
		契約額等	時価	差損益	契約額等	時価	差損益
店頭	為替予約						
	売建	1,365,473	7,730	7,730	1,091,756	△12,300	△12,300
	(米ドル)	526,871	11,083	11,083	453,609	△5,041	△5,041
	(ユーロ)	380,362	3,329	3,329	323,330	△3,793	△3,793
	(オーストラリアドル)	144,063	△5,117	△5,117	83,011	△3,058	△3,058
	(イギリスポンド)	99,762	288	288	51,626	121	121
	(カナダドル)	41,461	△235	△235	44,472	27	27
	(その他)	172,951	△1,618	△1,618	135,706	△556	△556
	買建	846,900	△5,808	△5,808	1,033,614	5,788	5,788
	(米ドル)	445,562	△10,217	△10,217	592,246	4,083	4,083
	(ユーロ)	124,280	1,175	1,175	345,442	△643	△643
	(オーストラリアドル)	87,757	2,960	2,960	17,037	524	524
	(カナダドル)	29,184	13	13	16,427	△153	△153
	(イギリスポンド)	63,702	24	24	9,057	△26	△26
	(その他)	96,413	234	234	53,402	2,004	2,004
	通貨オプション						
	売建						
	コール	—			93,491		
	(米ドル)	(—)	—	—	(690)	—	690
	買建						
	コール	57,179			—		
	(ユーロ)	(722)	0	△722	(—)	—	—
	プット	241,613			521,866		
(米ドル)	(5,242)	3,440	△1,801	(7,321)	2,668	△4,652	
(ユーロ)	(4,652)	3,435	△1,217	(6,656)	2,445	△4,210	
(オーストラリアドル)	—	—	—	108,899	223	△441	
	(589)	4	△584	(—)	—	—	
合計			△601			△10,473	

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
2. 年度末の為替相場は先物相場を使用しています。  
3. 差損益欄には、為替予約については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
4. 上表において、残存期間1年超の取引はありません。

## (c) 株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末			2016年度末		
		契約額等	時価	差損益	契約額等	時価	差損益
取引所	円建株価指数先物						
	売建	9,945	12	12	—	—	—
	買建	8,238	△4	△4	25,313	△268	△268
	外貨建株価指数先物						
	売建	2,849	△58	△58	5,942	△217	△217
	買建	9,072	155	155	20,109	71	71
	円建株価指数オプション						
	売建						
	コール	59,972 (144)	2	141	— (—)	—	—
	買建						
	プット	99,990 (6,366)	53	△6,312	80,000 (2,362)	10	△2,352
	外貨建株価指数オプション						
	売建						
	コール	31,954 (886)	135	751	— (—)	—	—
買建							
コール	9,583 (48)	0	△47	— (—)	—	—	
プット	31,956 (1,363)	583	△779	— (—)	—	—	
店頭	国内株式先渡契約						
	買建	9,784	△112	△112	—	—	—
合計			△6,255			△2,767	

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
 2. 差損益欄には、先物取引及び先渡契約については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
 3. 上表において、残存期間1年超の取引はありません。

## (d) 債券関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末			2016年度末		
		契約額等	時価	差損益	契約額等	時価	差損益
取引所	円建債券先物						
	売建	21,057	26	26	9,298	△18	△18
	買建	2,425	△4	△4	66,772	102	102
	外貨建債券先物						
	売建	—	—	—	222,731	△915	△915
買建	157,667	△24	△24	198,713	1,301	1,301	
店頭	円建債券店頭オプション						
	売建						
	コール	40,994 (191)	522	△331	18,784 (47)	90	△42
	プット	45,379 (112)	113	△1	99,556 (693)	496	197
	買建						
	コール	45,379 (101)	91	△9	99,556 (453)	675	222
プット	40,994 (235)	109	△126	18,784 (119)	160	41	
合計			△472			888	

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
 2. 差損益欄には、先物取引については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
 3. 上表において、残存期間1年超の取引はありません。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## (e) その他

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	クレジット・デフォルト・スワップ								
	プロテクション売建	24,500	24,500	529	529	28,000	25,000	674	674
	プロテクション買建	—	—	—	—	11,385	11,385	△119	△119
合計									554

(注) 差損益欄には、時価を記載しています。

## ③ヘッジ会計が適用されているもの

## (a) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2015年度末				2016年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
原則的処理方法	金利スワップ									
	固定金利受取/変動金利支払	貸付金	—	—	—	—	3,000	3,000	△18	△18
	固定金利受取/変動金利支払	保険負債	—	—	—	—	600,000	600,000	△20,541	△20,541
金利スワップの特例処理	金利スワップ									
	固定金利受取/変動金利支払	貸付金	15,800	11,800	482	482	19,800	16,800	189	189
	固定金利支払/変動金利受取	借入金	283,000	283,000	△4,022	△4,022	283,000	283,000	△3,161	△3,161
合計										△23,531

(注) 差損益欄には、時価を記載しています。

## (参考) 金利スワップ残存期間別残高

(単位：百万円、%)

区分		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合計
2015年度末	受取側固定スワップ想定元本	4,000	4,500	3,000	2,000	2,300	—	15,800
	平均受取固定金利	1.85	1.20	0.46	0.45	1.19	—	1.13
	平均支払変動金利	0.12	0.09	△0.00	△0.01	0.10	—	0.07
	支払側固定スワップ想定元本	—	—	139,000	144,000	—	—	283,000
	平均支払固定金利	—	—	0.28	0.42	—	—	0.35
	平均受取変動金利	—	—	0.26	0.26	—	—	0.26
合計		4,000	4,500	142,000	146,000	2,300	—	298,800
2016年度末	受取側固定スワップ想定元本	3,000	4,500	7,000	6,000	2,300	600,000	622,800
	平均受取固定金利	1.62	△0.00	0.17	△0.02	1.19	0.43	0.43
	平均支払変動金利	0.02	△0.00	0.02	0.03	0.06	0.02	0.02
	支払側固定スワップ想定元本	—	—	139,000	144,000	—	—	283,000
	平均支払固定金利	—	—	0.28	0.42	—	—	0.35
	平均受取変動金利	—	—	0.11	0.11	—	—	0.11
合計		3,000	4,500	146,000	150,000	2,300	600,000	905,800

## (b) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	2015年度末				2016年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
原則的 処理方法	通貨スワップ (米ドル) (ユーロ)	外貨建債券	205,817	205,817	△887	△887	266,142	252,943	3,541	3,541
			155,920	155,920	△2,941	△2,941	204,574	191,375	△953	△953
			49,897	49,897	2,053	2,053	61,568	61,568	4,494	4,494
ヘッジ対象に 係る損益を 認識する方法	為替予約 売建 (米ドル) (ユーロ) (オーストラリアドル) (カナダドル) (イギリスポンド) (その他) 買建 (米ドル) (ユーロ) (イギリスポンド) (オーストラリアドル) (その他)	外貨建債券	3,609,448	—	108,567	108,567	5,215,748	—	△140,242	△140,242
			1,794,006	—	54,939	54,939	2,948,262	—	△81,896	△81,896
			961,588	—	43,872	43,872	1,090,351	—	△8,294	△8,294
			301,556	—	△10,043	△10,043	415,851	—	△22,627	△22,627
			18,773	—	△1,015	△1,015	138,358	—	△8,876	△8,876
			158,245	—	8,654	8,654	125,768	—	△1,271	△1,271
			375,277	—	12,160	12,160	497,156	—	△17,274	△17,274
			2,895	—	△108	△108	27,390	—	△42	△42
			2,203	—	△114	△114	18,150	—	△157	△157
			248	—	△4	△4	3,000	—	△43	△43
			159	—	△17	△17	60	—	△1	△1
			2	—	0	0	0	—	0	0
			281	—	27	27	6,178	—	159	159
為替予約等の 振当処理	為替予約 売建 (オーストラリアドル) (米ドル) (その他) 通貨スワップ (米ドル) 通貨スワップ (米ドル) (ユーロ)	外貨建定期預金 外貨建社債 (負債) 外貨建 貸付金	473,975	—	—	—	314,849	—	—	—
			179,108	—	—	—	122,516	—	—	—
			124,888	—	—	—	81,866	—	—	—
			169,978	—	—	—	110,465	—	—	—
			215,727	215,727	—	—	476,277	476,277	—	—
			215,727	215,727	—	—	476,277	476,277	—	—
合 計										
						107,571			△136,742	

(注) 1.年度末の為替相場は先物相場を使用しています。

2.為替予約及び通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建定期預金、外貨建社債（負債）及び外貨建貸付金と一体処理されているため、その時価は、当該外貨建定期預金、外貨建社債（負債）及び外貨建貸付金の時価に含めて記載しています。

3.差損益欄には、為替予約及び通貨スワップ取引については時価を記載しています。（注2.を除く）

## (c) 株式関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	2015年度末				2016年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
ヘッジ対象に 係る損益を 認識する方法	国内株式先渡契約 売建	国内株式	10,288	—	194	194	26,264	—	1,246	1,246
合 計						194			1,246	

(注) 差損益欄には、時価を記載しています。

## (d) 債券関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	2015年度末				2016年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
原則的 処理方法	外貨建債券店頭オプション 売建 コール 買建 プット	外貨建債券	114,736	—	3,837	△1,572	62,192	—	1,030	△127
			(2,265)				(902)			
合 計										
					561	△1,703	62,192	—	313	△589
						(902)			△717	

(注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

2.差損益欄にはオプション料と時価との差額を記載しています。

(e) その他は、2015年度末、2016年度末ともに期末残高がないため、記載していません。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## 〈資産関係〉

### (1) 資産の構成 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
現預金・コールローン	607,476	1.7	515,536	1.5
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	233,206	0.7	192,213	0.6
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	52,806	0.2	50,191	0.1
有価証券	29,407,417	84.1	29,659,250	85.3
公社債	16,372,818	46.8	16,052,254	46.2
株式	3,353,552	9.6	3,474,743	10.0
外国証券	9,091,602	26.0	9,512,246	27.3
公社債	6,907,918	19.8	8,260,182	23.7
株式等	2,183,683	6.2	1,252,063	3.6
その他の証券	589,444	1.7	620,006	1.8
貸付金	2,826,052	8.1	2,657,852	7.6
保険約款貸付	405,056	1.2	381,830	1.1
一般貸付	2,420,995	6.9	2,276,021	6.5
不動産	1,157,543	3.3	1,116,371	3.2
うち投資用不動産	784,749	2.2	773,479	2.2
繰延税金資産	—	—	—	—
その他	688,292	2.0	592,762	1.7
貸倒引当金	△1,237	△0.0	△1,472	△0.0
一般勘定資産計	34,971,556	100.0	34,782,705	100.0
(うち外貨建資産)	(7,661,764)	(21.9)	(8,407,769)	(24.2)

(注) 「不動産」については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

### (2) 資産の増減 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
現預金・コールローン	△294,377	△91,939
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△26,528	△40,993
商品有価証券	—	—
金銭の信託	16,683	△2,614
有価証券	△262,827	251,833
公社債	283,848	△320,563
株式	△401,228	121,191
外国証券	△300,965	420,644
公社債	△51,535	1,352,263
株式等	△249,429	△931,619
その他の証券	155,518	30,561
貸付金	△203,243	△168,199
保険約款貸付	△23,498	△23,226
一般貸付	△179,744	△144,973
不動産	△38,485	△41,171
うち投資用不動産	1,485	△11,270
繰延税金資産	—	—
その他	123,737	△95,530
貸倒引当金	868	△235
一般勘定資産計	△684,171	△188,850
(うち外貨建資産)	(△119,056)	(746,005)

(注) 「不動産」については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

## (3) 資産別運用利回り (一般勘定) (単位: %)

区 分	2015年度	2016年度
現預金・コールローン	△0.22	0.14
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	2.16	2.03
商品有価証券	—	—
金銭の信託	△1.70	8.83
有価証券	2.79	2.36
うち公社債	1.68	2.47
うち株式	4.85	3.20
うち外国証券	4.24	2.05
公社債	4.06	1.71
株式等	4.74	3.73
貸付金	2.17	2.03
うち一般貸付	1.76	1.61
不動産	3.73	3.99
一般勘定計	2.50	2.21
(うち海外投融資)	(3.87)	(1.90)

## (4) 主要資産の平均残高 (一般勘定) (単位: 億円)

区 分	2015年度	2016年度
現預金・コールローン	7,408	6,522
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	2,344	2,051
商品有価証券	—	—
金銭の信託	466	476
有価証券	264,948	271,052
うち公社債	157,940	157,366
うち株式	20,188	19,376
うち外国証券	82,333	88,753
公社債	61,139	73,705
株式等	21,194	15,047
貸付金	29,100	27,837
うち一般貸付	24,928	23,899
不動産	7,927	7,916
一般勘定計	326,470	330,018
(うち海外投融資)	(89,975)	(96,175)

(注) 1.「運用利回り」は、分母を帳簿価額ベースの「日々平均残高」、分子を「経常損益中の資産運用収益－資産運用費用」として算出しています。  
2.「海外投融資」には、円貨建資産を含んでいます。

## (5) 預貯金明細表 (一般勘定)

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
ゆうちょ振替・ゆうちょ通常貯金	21,250	16,431
預金	505,528	420,437
当座預金	3,524	5,618
普通預金	13,851	32,097
通知預金	—	—
定期預金	86	86
外貨預金	487,590	332,637
譲渡性預金	—	49,998
その他の預金	475	—
合 計	526,779	436,869

## (6) 商品有価証券明細表 (一般勘定)

2015年度末、2016年度末ともに残高がないため、記載していません。

## (7) 商品有価証券売買高 (一般勘定)

2015年度、2016年度ともに売買高がないため、記載していません。

## (8) 有価証券明細表 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
国債	14,394,575	48.9	13,967,855	47.1
地方債	125,047	0.4	109,098	0.4
社債	1,853,195	6.3	1,975,300	6.7
(うち公社・公団債)	527,917	1.8	445,919	1.5
株式	3,353,552	11.4	3,474,743	11.7
外国証券	9,091,602	30.9	9,512,246	32.1
公社債	6,907,918	23.5	8,260,182	27.9
株式等	2,183,683	7.4	1,252,063	4.2
その他の証券	589,444	2.0	620,006	2.1
合 計	29,407,417	100.0	29,659,250	100.0

## (9) 有価証券残存期間別残高 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定めのない ものを含む)	合計	
2015年度末	有価証券	860,955	1,477,133	1,472,819	920,254	2,103,598	22,572,655	29,407,417
	国債	108,757	291,868	323,800	81,278	760,723	12,828,146	14,394,575
	地方債	16,466	8,806	28,553	2,797	19,924	48,498	125,047
	社債	237,819	315,084	258,946	155,260	226,255	659,828	1,853,195
	株式	—	—	—	—	—	3,353,552	3,353,552
	外国証券	475,072	800,229	820,076	671,911	1,036,864	5,287,448	9,091,602
	公社債	467,946	796,450	818,875	664,634	1,020,799	3,139,212	6,907,918
	株式等	7,125	3,779	1,200	7,276	16,065	2,148,235	2,183,683
	その他の証券	22,839	61,144	41,442	9,006	59,829	395,181	589,444
	買入金銭債権	12,210	5,283	—	—	—	215,712	233,206
	譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—
	その他	2,640	—	—	—	—	50,166	52,806
2016年度末	有価証券	520,493	1,344,770	1,352,622	1,079,153	2,897,918	22,464,291	29,659,250
	国債	36,262	346,870	152,306	297,985	910,335	12,224,094	13,967,855
	地方債	3,627	6,794	30,515	4,381	21,582	42,196	109,098
	社債	162,816	224,979	216,739	142,690	394,343	833,731	1,975,300
	株式	—	—	—	—	—	3,474,743	3,474,743
	外国証券	315,351	671,420	907,718	602,022	1,514,610	5,501,122	9,512,246
	公社債	311,838	666,258	906,513	583,178	1,494,081	4,298,312	8,260,182
	株式等	3,513	5,162	1,204	18,844	20,529	1,202,809	1,252,063
	その他の証券	2,434	94,704	45,342	32,074	57,046	388,403	620,006
	買入金銭債権	3,066	2,077	541	2,576	—	183,951	192,213
	譲渡性預金	49,998	—	—	—	—	—	49,998
	その他	—	—	—	—	—	50,191	50,191

(注) 「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものを含んでいます。

## (10) 業種別国内株式保有明細表 (一般勘定)

(単位:百万円、%)

区 分	2015年度末	占率	2016年度末	占率	
水産・農林業	219	0.0	242	0.0	
鉱業	200	0.0	200	0.0	
建設業	103,135	3.1	108,340	3.1	
製造業	食料品	230,778	6.9	224,692	6.5
	繊維製品	27,722	0.8	31,442	0.9
	パルプ・紙	2,982	0.1	3,419	0.1
	化学	140,718	4.2	182,076	5.2
	医薬品	74,281	2.2	55,602	1.6
	石油・石炭製品	3,394	0.1	4,633	0.1
	ゴム製品	22,770	0.7	25,804	0.7
	ガラス・土石製品	97,758	2.9	119,314	3.4
	鉄鋼	53,786	1.6	62,363	1.8
	非鉄金属	13,307	0.4	17,929	0.5
	金属製品	40,101	1.2	46,294	1.3
	機械	156,378	4.7	204,880	5.9
	電気機器	462,475	13.8	553,055	15.9
	輸送用機器	193,517	5.8	219,540	6.3
	精密機器	101,576	3.0	106,092	3.1
	その他製品	78,639	2.3	79,704	2.3
電気・ガス業	105,522	3.1	102,152	2.9	
運輸・情報通信業	陸運業	336,784	10.0	319,236	9.2
	海運業	44	0.0	55	0.0
	空運業	4,788	0.1	3,209	0.1
	倉庫・運輸関連業	4,274	0.1	4,642	0.1
	情報・通信業	81,682	2.4	92,337	2.7
商業	卸売業	114,824	3.4	140,751	4.1
	小売業	111,611	3.3	112,405	3.2
金融・保険業	銀行業	346,105	10.3	416,199	12.0
	証券・商品先物取引業	7,249	0.2	5,378	0.2
	保険業	238,548	7.1	21,657	0.6
	その他金融業	20,894	0.6	24,712	0.7
不動産業	22,100	0.7	20,947	0.6	
サービス業	155,374	4.6	165,429	4.8	
合 計	3,353,552	100.0	3,474,743	100.0	

(注) 業種区分は、「証券コード協議会」の「業種別分類項目」に準拠しています。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況



## (11) 地域別地方債保有内訳 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
北海道	3,544	3,489
東北	—	—
関東	56,065	49,298
中部	25,600	22,217
近畿	16,687	16,488
中国	4,928	4,924
四国	—	—
九州	16,214	11,081
その他	2,005	1,598
合 計	125,047	109,098

(注) 上表の「その他」は共同発行市場公募地方債の残高です。

## (12) 保有公社債の期末残高利回り (一般勘定)

(単位：%)

区 分	2015年度末	2016年度末
公社債	1.92	1.90
外国公社債	3.68	3.32

## (13) 貸付金明細表 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
保険約款貸付	405,056	381,830
保険料振替貸付	40,085	36,279
契約者貸付	364,970	345,551
一般貸付	2,420,995	2,276,021
(うち非居住者貸付)	(45,090)	(41,008)
企業貸付	2,062,430	2,002,079
(うち国内企業向け)	(2,027,640)	(1,963,771)
国・国際機関・政府関係機関貸付	17,181	8,647
公共団体・公企業貸付	340,485	264,618
住宅ローン	861	637
消費者ローン	36	38
その他	—	—
合 計	2,826,052	2,657,852

## (14) 貸付金残存期間別残高 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定めのない ものを含む)	合計	
2015年度末	変動金利	6,525	11,949	19,583	7,500	6,834	39,357	91,750
	固定金利	301,581	426,542	309,549	306,254	480,722	504,593	2,329,244
	一般貸付計	308,107	438,492	329,133	313,754	487,556	543,951	2,420,995
2016年度末	変動金利	4,165	20,402	20,115	6,500	6,390	68,094	125,669
	固定金利	269,345	347,924	338,646	370,821	407,408	416,206	2,150,352
	一般貸付計	273,511	368,326	358,761	377,321	413,799	484,300	2,276,021

## (15) 国内企業向け貸付金企業規模別内訳 (一般勘定)

(単位：件、百万円、%)

区 分		2015年度末		2016年度末	
			占率		占率
大企業	貸付先数	237	67.9	225	67.4
	金 額	1,727,946	85.2	1,667,247	84.9
中堅企業	貸付先数	10	2.9	11	3.3
	金 額	13,820	0.7	12,083	0.6
中小企業	貸付先数	102	29.2	98	29.3
	金 額	285,873	14.1	284,440	14.5
国内企業向け貸付計		349	100.0	334	100.0
		2,027,640	100.0	1,963,771	100.0

(注) 1.業種の区分は以下のとおりです。

2.貸付先数とは、各貸付先を名寄せした結果の債務者数をいい、貸付件数ではありません。

業 種	①右の②、③、④を除く全業種		②小売業、飲食業		③サービス業		④卸売業	
大 企 業	常用する 従業員 300名超 かつ	資本金 10億円以上	常用する 従業員 50名超 かつ	資本金 10億円以上	常用する 従業員 100名超 かつ	資本金 10億円以上	常用する 従業員 100名超 かつ	資本金 10億円以上
中 堅 企 業		資本金3億円超 10億円未満		資本金5千万円超 10億円未満		資本金5千万円超 10億円未満		資本金1億円超 10億円未満
中 小 企 業	資本金3億円以下又は常用する従業員300名以下		資本金5千万円以下又は常用する従業員50名以下		資本金5千万円以下又は常用する従業員100名以下		資本金1億円以下又は常用する従業員100名以下	

## (16) 貸付金使途別内訳 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
設備資金	540,998	22.3	490,950	21.6
運転資金	1,879,996	77.7	1,785,071	78.4
合 計	2,420,995	100.0	2,276,021	100.0

## (17) 貸付金地域別内訳 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
北海道	38,559	1.6	34,051	1.5
東北	38,206	1.6	35,662	1.6
関東	1,822,780	76.7	1,735,914	77.7
中部	176,428	7.4	160,276	7.2
近畿	166,492	7.0	146,379	6.6
中国	45,412	1.9	42,627	1.9
四国	19,766	0.8	13,648	0.6
九州	67,360	2.8	65,776	2.9
合 計	2,375,007	100.0	2,234,337	100.0

(注) 1.個人ローン、非居住者貸付、保険約款貸付等は含んでいません。

2.地域区分は、貸付先の本社所在地によります。

## (18) 貸付金業種別内訳 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区分	2015年度末	2016年度末			
		占率	占率		
国内向け	製造業	375,787	15.5	357,511	15.7
	食料	34,747	1.4	36,782	1.6
	繊維	4,209	0.2	2,025	0.1
	木材・木製品	500	0.0	500	0.0
	パルプ・紙	29,948	1.2	19,876	0.9
	印刷	15,035	0.6	13,775	0.6
	化学	25,894	1.1	21,774	1.0
	石油・石炭	19,942	0.8	18,070	0.8
	窯業・土石	29,486	1.2	29,157	1.3
	鉄鋼	69,300	2.9	82,300	3.6
	非鉄金属	7,059	0.3	6,803	0.3
	金属製品	730	0.0	611	0.0
	はん用・生産用・業務用機械	46,544	1.9	36,756	1.6
	電気機械	73,099	3.0	72,858	3.2
	輸送用機械	14,182	0.6	11,976	0.5
	その他の製造業	5,109	0.2	4,244	0.2
	農業、林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
	建設業	10,466	0.4	10,054	0.4
	電気・ガス・熱供給・水道業	415,564	17.2	377,353	16.6
	情報通信業	49,839	2.1	55,673	2.4
	運輸業、郵便業	262,877	10.9	250,411	11.0
	卸売業	478,206	19.8	466,615	20.5
	小売業	12,365	0.5	11,226	0.5
	金融業、保険業	497,095	20.5	444,127	19.5
	不動産業	132,061	5.5	119,709	5.3
	物品賃貸業	104,154	4.3	107,851	4.7
	学術研究、専門・技術サービス業	877	0.0	954	0.0
	宿泊業	0	0.0	—	—
	飲食業	—	—	—	—
	生活関連サービス業、娯楽業	3,235	0.1	3,163	0.1
教育、学習支援業	—	—	—	—	
医療・福祉	150	0.0	150	0.0	
その他のサービス	3,460	0.1	3,100	0.1	
地方公共団体	28,530	1.2	26,169	1.1	
個人 (住宅・消費・納税資金等)	897	0.0	675	0.0	
その他	333	0.0	266	0.0	
合 計	2,375,904	98.1	2,235,013	98.2	
海外向け	政府等	10,300	0.4	2,700	0.1
	金融機関	11,544	0.5	11,544	0.5
	商工業等	23,246	1.0	26,763	1.2
	合 計	45,090	1.9	41,008	1.8
一般貸付計	2,420,995	100.0	2,276,021	100.0	

(注) 1.保険約款貸付は含んでいません。  
2.国内向けの業種区分は日本銀行の「貸出先別貸出金 (業種別、設備資金新規貸出)」の業種区分に準拠しています。

(19) 各種ローン金利

(単位：%)

貸付の種類		一般貸付 基準金利 (長期プライムレート)	貸付の種類		一般貸付 基準金利 (長期プライムレート)
日付			日付		
2015年度	4/10	1.15	2016年度	4/8	0.95
	5/8	1.15		5/10	0.95
	6/10	1.15		6/10	0.95
	7/10	1.15		7/8	0.90
	8/11	1.15		8/10	0.95
	9/10	1.10		9/9	0.95
	10/9	1.10		10/12	0.95
	11/10	1.10		11/10	0.95
	12/10	1.10		12/9	0.95
	1/8	1.10		1/11	0.95
	2/10	1.00		2/10	0.95
	3/10	0.95		3/10	0.95

(20) 貸付金担保別内訳 (一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
担保貸付	4,053	0.2	3,667	0.2
有価証券担保貸付	2,254	0.1	2,338	0.1
不動産・動産・財団担保貸付	1,743	0.1	1,301	0.1
指名債権担保貸付	56	0.0	27	0.0
保証貸付	93,774	3.9	83,113	3.7
信用貸付	2,322,269	95.9	2,188,565	96.2
その他	897	0.0	675	0.0
一般貸付計	2,420,995	100.0	2,276,021	100.0
(うち劣後特約貸付)	(258,800)	(10.7)	(302,800)	(13.3)

(注) 保険約款貸付は含んでいません。

(21) リスク管理債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末	2016年度末
破綻先債権額	93	89
延滞債権額	3,005	2,608
3カ月以上延滞債権額	—	—
貸付条件緩和債権額	415	5
合 計	3,513	2,703
(貸付残高に対する比率)	(0.12)	(0.10)

- (注) 1.破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる金額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しています。その金額は、2015年度末が破綻先債権額2百万円、延滞債権額56百万円、2016年度末が破綻先債権額2百万円、延滞債権額53百万円です。
- 2.破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(未収利息不計上貸付金)のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、又は手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
- 3.延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外の貸付金です。
- 4.3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
- 5.貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

## (22) 債務者区分による債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末	2016年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	129	128
危険債権	2,969	2,569
要管理債権	437	24
小 計	3,536	2,722
(対合計比)	(0.07)	(0.06)
正常債権	5,169,698	4,584,681
合 計	5,173,234	4,587,404

- (注) 1.破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。  
2.危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。  
3.要管理債権とは、3カ月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3カ月以上延滞貸付金とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸付金（注1及び2に掲げる債権を除く。）、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なった貸付金（注1及び2に掲げる債権並びに3カ月以上延滞貸付金を除く。）です。  
4.正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

## (23) 元本補填契約のある信託に係る貸出金の状況

2015年度末、2016年度末ともに残高がないため、記載していません。

## (24) 海外投融資の状況・利回り（一般勘定）

### ①資産別明細（一般勘定）

(単位：百万円、%)

区 分		2015年度末		2016年度末	
			占率		占率
外貨 建資産	公社債	5,971,800	59.6	7,503,550	72.5
	株式	1,341,231	13.4	675,410	6.5
	現預金・その他	348,732	3.5	228,808	2.2
	小 計	7,661,764	76.5	8,407,769	81.2
外貨額が 確定した 建資産	公社債	—	—	—	—
	現預金・その他	508,712	5.1	354,058	3.4
	小 計	508,712	5.1	354,058	3.4
円貨 建資産	非居住者貸付	31,868	0.3	22,666	0.2
	公社債（円建外債）・その他	1,818,674	18.1	1,569,179	15.2
	小 計	1,850,542	18.5	1,591,846	15.4
合計	海外投融資	10,021,019	100.0	10,353,674	100.0

- (注) 円貨額が確定した外貨建資産は、為替予約等が付されていることにより決済時の円貨額が確定し、当該円貨額を資産の貸借対照表価額としているものです。

②外貨建資産の通貨別構成／海外投融資利回り（一般勘定）

（単位：百万円、％）

区 分	2015年度末		2016年度末	
		占率		占率
米ドル	3,995,166	52.1	4,673,054	55.6
ユーロ	1,757,767	22.9	1,721,716	20.5
オーストラリアドル	674,012	8.8	679,085	8.1
イギリスポンド	315,117	4.1	254,239	3.0
カナダドル	86,172	1.1	238,371	2.8
メキシコペソ	250,197	3.3	217,141	2.6
ニュージーランドドル	150,378	2.0	200,635	2.4
その他共計	7,661,764	100.0	8,407,769	100.0
海外投融資利回り	3.87		1.90	

③地域別構成（一般勘定）

（単位：百万円、％）

区 分	外国証券						非居住者貸付		
	外国証券		公社債		株式等		非居住者貸付		
	金額	占率	金額	占率	金額	占率	金額	占率	
2015年度末	北米	3,676,241	40.4	2,887,566	41.8	788,675	36.1	11,715	26.0
	ヨーロッパ	2,538,727	27.9	2,341,305	33.9	197,421	9.0	11,212	24.9
	オセアニア	823,877	9.1	639,442	9.3	184,435	8.4	5,000	11.1
	アジア	265,358	2.9	109,762	1.6	155,595	7.1	1,500	3.3
	中南米	1,591,568	17.5	734,273	10.6	857,295	39.3	5,362	11.9
	中東	—	—	—	—	—	—	—	—
	アフリカ	26,074	0.3	25,813	0.4	260	0.0	—	—
	国際機関	169,754	1.9	169,754	2.5	—	—	10,300	22.8
	合 計	9,091,602	100.0	6,907,918	100.0	2,183,683	100.0	45,090	100.0
2016年度末	北米	4,109,374	43.2	3,840,644	46.5	268,729	21.5	10,263	25.0
	ヨーロッパ	2,665,186	28.0	2,461,926	29.8	203,260	16.2	10,369	25.3
	オセアニア	837,203	8.8	794,624	9.6	42,579	3.4	5,000	12.2
	アジア	216,677	2.3	109,851	1.3	106,826	8.5	1,500	3.7
	中南米	1,504,340	15.8	874,219	10.6	630,121	50.3	11,175	27.3
	中東	—	—	—	—	—	—	—	—
	アフリカ	23,089	0.2	22,543	0.3	546	0.0	—	—
	国際機関	156,373	1.6	156,373	1.9	—	—	2,700	6.6
	合 計	9,512,246	100.0	8,260,182	100.0	1,252,063	100.0	41,008	100.0

（注）地域区分は発行会社及び貸付先企業の国籍等に基づいています。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## (25) 公共関係投融资の概況 (新規引受額、貸出額) (一般勘定)

(単位:百万円)

区 分		2015年度	2016年度
公共債	国債	198	823
	地方債	—	—
	公社・公団債	3,595	1,345
	小 計	3,793	2,168
貸付	政府関係機関	2,491	2,181
	公共団体・公企業	8,600	200
	小 計	11,091	2,381
合 計		14,884	4,549

## (26) 有形固定資産明細表 (一般勘定)

(単位:百万円、%)

区 分		当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	償却累計率
2015年度	土地	801,088	6,394	15,381 (13,780)	—	792,101	—	—
	建物	394,089	11,416	21,565 (20,757)	20,902	363,038	647,866	64.1
	リース資産	4,658	1,523	2	1,688	4,491	5,290	54.1
	建設仮勘定	850	19,363	17,811	—	2,402	—	—
	その他の有形固定資産	2,602	974	388	1,039	2,149	9,253	81.2
	合 計	1,203,289	39,672	55,149 (34,538)	23,629	1,164,183	662,411	—
	うち賃貸等不動産	783,575	22,259	4,576	14,153	787,104	424,201	63.3
2016年度	土地	792,101	16,059	36,139 (8,622)	—	772,021	—	—
	建物	363,038	21,888	21,345 (5,119)	19,923	343,658	592,171	63.3
	リース資産	4,491	2,200	0	1,767	4,923	6,401	56.5
	建設仮勘定	2,402	36,292	38,003	—	691	—	—
	その他の有形固定資産	2,149	2,066	38	1,059	3,117	9,176	74.6
	合 計	1,164,183	78,506	95,527 (13,742)	22,750	1,124,412	607,749	—
	うち賃貸等不動産	787,104	40,356	39,205	13,758	774,496	411,847	63.1

- (注) 1.償却累計率は、取得価額に対する減価償却累計額の割合です。  
2.土地勘定、建設仮勘定の増加額・減少額には、交換取引は除いています。  
3.「当期減少額」欄の( )内には、減損損失の計上額を記載しています。

## (27) 不動産残高及び賃貸用ビル保有数

(単位:百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
不動産残高	1,157,543	1,116,371
営業用	372,793	342,892
賃貸用	784,749	773,479
賃貸用ビル保有数	274棟	282棟

## (28) その他の資産明細表 (一般勘定)

(単位:百万円)

区 分		取得原価	当期首残高	当期増加額	当期減少額	減価償却累計額	当期末残高
2015年度	繰延資産	8,473	5,704	1,039	1,456	3,186	5,287
	その他	8,266	5,950	6,171	5,822	1,968	6,298
	合 計	16,740	11,655	7,210	7,278	5,154	11,586
2016年度	繰延資産	10,231	5,287	4,108	1,888	2,724	7,507
	その他	25,242	6,298	22,860	6,048	2,131	23,111
	合 計	35,474	11,586	26,968	7,936	4,855	30,618

- (注) 繰延資産は、法人税法上の繰延資産を含めて記載しています。

## 〈有価証券等の時価情報（一般勘定）〉

### (1) 有価証券の時価情報（一般勘定）

#### ① 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	50,166	△4,459	50,191	2,122
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	50,166	△4,459	50,191	2,122

#### ② 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）

(単位：百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
公社債	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	12,027,685	15,449,932	3,422,247	3,422,586	339	12,001,580	14,764,373	2,762,792	2,782,071	19,278
公社債	11,948,259	15,369,411	3,421,152	3,421,152	—	11,911,257	14,672,992	2,761,734	2,780,815	19,081
外国公社債	79,425	80,520	1,095	1,434	339	90,322	91,380	1,058	1,255	197
子会社・関連会社株式	26,570	61,653	35,082	35,101	18	304	302	△2	7	10
その他有価証券	12,927,650	15,628,568	2,700,917	2,874,655	173,738	14,459,160	17,184,631	2,725,470	2,865,886	140,416
公社債	3,782,592	4,378,846	596,253	596,857	603	3,617,249	4,094,982	477,733	485,227	7,493
株式	1,677,678	2,990,485	1,312,806	1,409,264	96,457	1,647,671	3,335,538	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	6,759,695	7,526,318	766,622	830,252	63,629	8,443,706	8,964,471	520,764	625,317	104,552
公社債	6,150,829	6,828,492	677,663	714,258	36,594	7,776,125	8,169,860	393,734	488,696	94,961
株式等	608,865	697,825	88,959	115,994	27,035	667,581	794,611	127,030	136,621	9,591
その他の証券	484,658	497,071	12,412	25,441	13,028	514,139	547,427	33,288	36,687	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—
合 計	25,027,619	31,191,450	6,163,830	6,337,926	174,095	26,507,060	31,999,841	5,492,780	5,652,485	159,704
公社債	15,776,565	19,799,554	4,022,989	4,023,592	603	15,574,521	18,818,509	3,243,987	3,270,562	26,575
株式	1,677,678	2,990,485	1,312,806	1,409,264	96,457	1,647,671	3,335,538	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	6,864,951	7,667,606	802,655	866,642	63,987	8,534,167	9,055,980	521,813	626,573	104,759
公社債	6,230,255	6,909,013	678,758	715,692	36,933	7,866,447	8,261,240	394,793	489,951	95,158
株式等	634,695	758,592	123,896	150,950	27,053	667,719	794,739	127,020	136,621	9,601
その他の証券	485,399	497,958	12,558	25,587	13,028	514,306	547,601	33,295	36,694	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。



・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国公社債	—	—
その他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	1,100,671	58,751
非上場国内株式（店頭売買株式を除く）	236,944	12,684
非上場外国株式（店頭売買株式を除く）	783,945	—
その他	79,781	46,067
その他有価証券	813,855	611,909
非上場国内株式（店頭売買株式を除く）	126,122	126,521
非上場外国株式（店頭売買株式を除く）	665,001	459,050
非上場外国公社債	—	—
その他	22,731	26,337
合 計	1,914,526	670,660

(注) 1.本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

2.時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券のうち、外国証券の為替を評価した差損益は以下のとおりです。

(2015年度末：48,179百万円、2016年度末：△1,746百万円)

〈参考〉時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券のうち、外国証券の為替を評価し、それ以外の時価を帳簿価額として、時価のある有価証券と合算した場合の時価情報は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
公社債	45,712	51,296	5,583	5,583	—	46,014	50,534	4,519	4,519	—
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	12,027,685	15,449,932	3,422,247	3,422,586	339	12,001,580	14,764,373	2,762,792	2,782,071	19,278
公社債	11,948,259	15,369,411	3,421,152	3,421,152	—	11,911,257	14,672,992	2,761,734	2,780,815	19,081
外国公社債	79,425	80,520	1,095	1,434	339	90,322	91,380	1,058	1,255	197
子会社・関連会社株式	1,127,241	1,210,444	83,202	90,994	7,792	59,056	59,053	△2	7	10
株式	236,944	236,944	—	—	—	12,684	12,684	—	—	—
外国株式	819,672	902,729	83,056	90,849	7,792	138	128	△10	—	10
その他の証券	70,625	70,770	145	145	—	46,233	46,241	7	7	—
その他有価証券	13,741,506	16,442,484	2,700,977	2,874,715	173,738	15,071,069	17,794,794	2,723,724	2,865,886	142,162
公社債	3,782,592	4,378,846	596,253	596,857	603	3,617,249	4,094,982	477,733	485,227	7,493
株式	1,803,801	3,116,608	1,312,806	1,409,264	96,457	1,774,192	3,462,059	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	7,425,826	8,192,510	766,683	830,313	63,629	8,902,757	9,421,776	519,018	625,317	106,298
公社債	6,150,829	6,828,492	677,663	714,258	36,594	7,776,125	8,169,860	393,734	488,696	94,961
株式等	1,274,997	1,364,017	89,019	116,055	27,035	1,126,632	1,251,916	125,284	136,621	11,337
その他の証券	506,260	518,673	12,412	25,441	13,028	540,476	573,764	33,288	36,687	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—
合 計	26,942,146	33,154,157	6,212,010	6,393,880	181,870	27,177,721	32,668,755	5,491,034	5,652,485	161,451
公社債	15,776,565	19,799,554	4,022,989	4,023,592	603	15,574,521	18,818,509	3,243,987	3,270,562	26,575
株式	2,040,745	3,353,552	1,312,806	1,409,264	96,457	1,786,877	3,474,743	1,687,866	1,712,564	24,698
外国証券	8,324,925	9,175,760	850,834	922,596	71,761	8,993,218	9,513,285	520,067	626,573	106,506
公社債	6,230,255	6,909,013	678,758	715,692	36,933	7,866,447	8,261,240	394,793	489,951	95,158
株式等	2,094,670	2,266,746	172,076	206,904	34,828	1,126,770	1,252,044	125,274	136,621	11,347
その他の証券	576,885	589,444	12,558	25,587	13,028	586,710	620,006	33,295	36,694	3,398
買入金銭債権	220,436	233,206	12,769	12,787	17	186,393	192,213	5,819	6,090	270
譲渡性預金	—	—	—	—	—	50,000	49,998	△1	—	1
金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

## (2) 金銭の信託の時価情報 (一般勘定)

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	貸借対照表計上額	時価	差損益	差益		貸借対照表計上額	時価	差損益	差益	
				差益	差損				差益	差損
金銭の信託	52,806	52,806	△4,407	7,143	11,551	50,191	50,191	2,024	17,996	15,971

(注) 1.本表記載の時価相当額の算定は、金銭の信託の受託者が合理的に算定した価格によっています。  
2.差損益には金銭の信託内で設定しているデリバティブ取引に係る差損益も含んでいます。

## ・運用目的の金銭の信託

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	50,166	△4,459	50,191	2,122

## ・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末					2016年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益		帳簿価額	時価	差損益	差益	
				差益	差損				差益	差損
満期保有目的の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の金銭の信託	2,587	2,640	52	52	—	—	—	—	—	—

## (3) デリバティブ取引の時価情報 (一般勘定) (ヘッジ会計適用分・非適用分の合算値)

## ① 差損益の内訳 (ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位: 百万円)

区 分	2015年度末						2016年度末					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	△3,540	107,571	194	△3,276	—	100,948	△23,531	△136,742	1,246	△717	—	△159,745
ヘッジ会計非適用分	△11,407	717	△6,351	△407	529	△16,919	△14,517	△11,690	△2,678	763	554	△27,569
合 計	△14,948	108,288	△6,156	△3,683	529	84,028	△38,049	△148,433	△1,432	46	554	△187,314

(注) 上表のうち損益計算書に計上されている金額は以下のとおりです。

2015年度末: ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益 (通貨関連108,459百万円、株式関連194百万円) 及びヘッジ会計非適用分の差損益 (△16,919百万円) の合計91,733百万円  
2016年度末: ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益 (通貨関連△140,284百万円、株式関連1,246百万円) 及びヘッジ会計非適用分の差損益 (△27,569百万円) の合計△166,608百万円

②時価情報

(a) 金利関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末					2016年度末				
		契約額等		時価	差損益		契約額等		時価	差損益	
		うち1年超			うちヘッジ 会計適用分		うち1年超			うちヘッジ 会計適用分	
店頭	金利スワップ										
	固定金利受取/変動金利支払	323,940	319,940	362	362	482	622,970	619,800	△20,368	△20,368	△20,369
	固定金利支払/変動金利受取	285,200	285,200	△4,255	△4,255	△4,022	327,100	327,100	△3,090	△3,090	△3,161
	金利スワップション										
	売建										
	固定金利支払/変動金利受取	350,000	350,000				350,000	—			
		(1,672)	(1,672)	983	689	—	(1,672)	(—)	67	1,604	—
	買建										
	固定金利受取/変動金利支払	100,000	—				—	—			
		(2,457)	(—)	2,760	303	—	(—)	(—)	—	—	—
固定金利支払/変動金利受取	1,150,000	1,070,000				1,150,000	855,000				
	(18,570)	(17,647)	6,521	△12,048	—	(18,214)	(14,947)	2,019	△16,194	—	
合計				△14,948	△3,540				△38,049	△23,531	

(注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

2. 差損益欄には、スワップ取引については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。

(参考) 金利スワップ残存期間別残高

(単位：百万円、%)

区分		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合計
2015年度末	受取側固定スワップ想定元本	4,000	4,840	3,000	9,800	2,300	300,000	323,940
	平均受取固定金利	1.85	1.20	0.46	0.66	1.19	0.51	0.55
	平均支払変動金利	0.12	0.08	△0.00	0.05	0.10	0.01	0.02
	支払側固定スワップ想定元本	—	—	139,000	144,000	—	2,200	285,200
	平均支払固定金利	—	—	0.28	0.42	—	1.08	0.36
	平均受取変動金利	—	—	0.26	0.26	—	0.02	0.26
合計	4,000	4,840	142,000	153,800	2,300	302,200	609,140	
2016年度末	受取側固定スワップ想定元本	3,170	4,500	7,000	6,000	2,300	600,000	622,970
	平均受取固定金利	1.60	△0.00	0.17	△0.02	1.19	0.43	0.43
	平均支払変動金利	0.02	△0.00	0.02	0.03	0.06	0.02	0.02
	支払側固定スワップ想定元本	—	43,000	139,000	144,000	—	1,100	327,100
	平均支払固定金利	—	△0.13	0.28	0.42	—	1.08	0.29
	平均受取変動金利	—	0.01	0.11	0.11	—	0.03	0.09
合計	3,170	47,500	146,000	150,000	2,300	601,100	950,070	

## (b) 通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分	契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分
店頭	為替予約								
	売建	4,839,772	117,775	117,775	108,567	6,134,678	△153,971	△153,971	△140,242
	(米ドル)	2,263,196	65,670	65,670	54,939	3,335,288	△87,935	△87,935	△81,896
	(ユーロ)	1,307,528	48,273	48,273	43,872	1,363,112	△12,369	△12,369	△8,294
	(オーストラリアドル)	436,096	△14,847	△14,847	△10,043	489,617	△25,774	△25,774	△22,627
	(カナダドル)	51,214	△1,026	△1,026	△1,015	172,040	△8,999	△8,999	△8,876
	(イギリスポンド)	236,075	9,067	9,067	8,654	147,752	△1,065	△1,065	△1,271
	(その他)	545,660	10,637	10,637	12,160	626,867	△17,827	△17,827	△17,274
	買建	824,982	△6,074	△6,074	△108	1,025,693	5,957	5,957	△42
	(米ドル)	435,498	△10,225	△10,225	△114	594,554	3,978	3,978	△157
	(ユーロ)	117,199	949	949	△4	332,726	△563	△563	△43
	(オーストラリアドル)	85,866	2,950	2,950	0	16,947	524	524	0
	(カナダドル)	27,318	0	0	—	16,164	△153	△153	—
	(イギリスポンド)	62,940	4	4	△17	6,956	△23	△23	△1
	(その他)	96,160	246	246	27	58,344	2,195	2,195	159
	通貨オプション								
	売建								
	コール	—	—	—	—	93,491	—	690	—
	(米ドル)	(—)	—	—	—	(690)	—	690	—
	買建								
	コール	57,179	0	△722	—	—	—	—	—
	(ユーロ)	(722)	0	△722	—	(—)	—	—	—
	プット	241,613	3,440	△1,801	—	521,866	2,668	△4,652	—
	(米ドル)	(5,242)	3,440	△1,801	—	(7,321)	2,668	△4,652	—
	(ユーロ)	219,498	3,435	△1,217	—	412,966	2,445	△4,210	—
	(オーストラリアドル)	(4,652)	3,435	△1,217	—	(6,656)	2,445	△4,210	—
	通貨スワップ								
(米ドル)	—	—	—	—	108,899	223	△441	—	
(ユーロ)	(—)	—	—	—	(664)	223	△441	—	
(オーストラリアドル)	22,115	4	△584	—	—	—	—	—	
	(589)	4	△584	—	(—)	—	—	—	
通貨スワップ	205,817	△887	△887	△887	266,142	3,541	3,541	3,541	
(米ドル)	155,920	△2,941	△2,941	△2,941	204,574	△953	△953	△953	
(ユーロ)	49,897	2,053	2,053	2,053	61,568	4,494	4,494	4,494	
合計			108,288	107,571			△148,433	△136,742	

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
2. 年度末の為替相場は先物相場を使用しています。  
3. 為替予約等により決済時における円貨額が確定しており、貸借対照表において当該円貨額で表示されている外貨建金銭債権債務等に係る当該為替予約等は、開示の対象より除いています。  
4. 差損益欄には、為替予約及びスワップ取引については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
5. 上表において、残存期間1年超の取引はありません(通貨スワップ取引除く)。

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況

## (c) 株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分	契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分
取引所	円建株価指数先物								
	売建	9,780	8	8	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	15,387	△158	△158	—
	外貨建株価指数先物								
	売建	—	—	—	—	5,942	△217	△217	—
	買建	—	—	—	—	10,935	49	49	—
	円建株価指数オプション								
	売建								
	コール	59,972 (144)	2	141	—	— (—)	—	—	—
	買建								
	プット	99,990 (6,366)	53	△6,312	—	80,000 (2,362)	10	△2,352	—
	外貨建株価指数オプション								
売建									
コール	31,954 (886)	135	751	—	— (—)	—	—	—	
買建									
コール	9,583 (48)	0	△47	—	— (—)	—	—	—	
プット	31,956 (1,363)	583	△779	—	— (—)	—	—	—	
店頭	国内株式先渡契約								
	売建	10,288	194	194	194	26,264	1,246	1,246	1,246
	買建	9,784	△112	△112	—	—	—	—	—
合計				△6,156	194			△1,432	1,246

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
2. 差損益欄には、先物取引及び先渡契約については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
3. 上表において、残存期間1年超の取引はありません。

## (d) 債券関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分	契約額等	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分
取引所	円建債券先物								
	売建	21,057	26	26	—	9,298	△18	△18	—
	買建	—	—	—	—	4,499	9	9	—
	外貨建債券先物								
売建	—	—	—	—	203,592	△619	△619	—	
買建	39,526	35	35	—	103,911	974	974	—	
店頭	円建債券店頭オプション								
	売建								
	コール	40,994 (191)	522	△331	—	18,784 (47)	90	△42	—
	プット	45,379 (112)	113	△1	—	99,556 (693)	496	197	—
	買建								
	コール	45,379 (101)	91	△9	—	99,556 (453)	675	222	—
	プット	40,994 (235)	109	△126	—	18,784 (119)	160	41	—
	外貨建債券店頭オプション								
	売建								
	コール	114,736 (2,265)	3,837	△1,572	△1,572	62,192 (902)	1,030	△127	△127
買建									
プット	114,736 (2,265)	561	△1,703	△1,703	62,192 (902)	313	△589	△589	
合計			△3,683	△3,276			46	△717	

- (注) 1. ( ) 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。  
 2. 差損益欄には、先物取引については時価を記載し、オプション取引についてはオプション料と時価との差額を記載しています。  
 3. 上表において、残存期間1年超の取引はありません。

## (e) その他

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末					2016年度末				
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分	契約額等	うち1年超	時価	差損益	うちヘッジ 会計適用分
店頭	クレジット・デフォルト・スワップ										
	プロテクション売建	24,500	24,500	529	529	—	28,000	25,000	674	674	—
	プロテクション買建	—	—	—	—	—	11,385	11,385	△119	△119	—
合計				529	—				554	—	

- (注) 差損益欄には、時価を記載しています。

## 〈資産運用関係収支〉

### (1) 資産運用収益明細表 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
利息及び配当金等収入	802,203	773,506
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	4,207
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	211,921	200,059
有価証券償還益	44,645	38,258
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
貸倒引当金戻入額	838	—
投資損失引当金戻入額	—	—
その他運用収益	409	1,231
合 計	1,060,017	1,017,262

### (2) 利息及び配当金等収入明細表 (一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
預貯金利息	11,213	7,416
貸付金利息	62,387	56,405
有価証券利息配当金	647,317	628,036
うち公社債利息	298,550	298,291
うち株式配当金	69,454	69,701
うち外国証券利息配当金	252,007	247,767
不動産賃貸料	69,545	70,696
その他共計	802,203	773,506

### (3) 利息及び配当金等収入の分析 (一般勘定)

(単位：億円)

区 分	利息の純増減	残高による増減	利率による増減	
2015年度	現預金・コールローン	△9	△34	25
	公社債	50	39	10
	株式	58	36	22
	外国証券	△60	585	△646
	公社債	△89	148	△238
	株式等	29	83	△54
	貸付金	△45	△25	△19
	不動産	15	7	7
	その他共計	△1	△59	58
2016年度	現預金・コールローン	△39	△12	△26
	公社債	2	△11	13
	株式	△0	△28	28
	外国証券	△41	188	△230
	公社債	152	358	△206
	株式等	△193	△187	△5
	貸付金	△59	△26	△33
	不動産	11	△0	12
	その他共計	△286	86	△373

## (4) 有価証券売却益明細表 (一般勘定)

(単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
国債等債券	6,598	108,873
株式等	38,011	29,609
外国証券	166,611	60,701
その他	698	874
合 計	211,921	200,059

## (5) 資産運用費用明細表 (一般勘定)

(単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
支払利息	15,242	12,995
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	791	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	62,457	91,167
有価証券評価損	873	24,814
有価証券償還損	1,201	2,610
金融派生商品費用	54,120	14,750
為替差損	53,872	81,093
貸倒引当金繰入額	—	248
投資損失引当金繰入額	423	21
貸付金償却	59	41
賃貸用不動産等減価償却費	14,165	13,765
その他運用費用	39,209	44,794
合 計	242,417	286,301

## (6) 有価証券売却損明細表 (一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
国債等債券	464	8,311
株式等	5,017	12,105
外国証券	54,989	68,907
その他	1,987	1,842
合 計	62,457	91,167

## (7) 有価証券評価損明細表 (一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
国債等債券	—	589
株式等	178	15,587
外国証券	695	8,637
その他	—	—
合 計	873	24,814

## (8) 資産運用関係収支 (一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
合 計	817,600	730,960

## (9) 貸付金償却額 (単位:百万円)

区 分	2015年度	2016年度
合 計	59	41

## (10) 賃貸用不動産等減価償却費明細表

(単位:百万円、%)

区 分	取得原価	2016年度償却額	減価償却累計額	2016年度末残高	償却累計率
有形固定資産	650,264	13,765	409,508	240,755	63.0
建物	650,044	13,758	409,303	240,741	63.0
リース資産	—	—	—	—	—
その他の有形固定資産	219	6	205	14	93.3
無形固定資産	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合 計	650,264	13,765	409,508	240,755	63.0

経営に関する諸資料

事業の状況

経理の状況

特別勘定の状況

保険会社及びその子会社等の状況



## 〈負債関係〉

(1) 支払備金明細表 (単位：百万円)

区 分		2015年度末	2016年度末
保 険 金	死亡保険金	64,672	65,019
	災害保険金	1,112	1,228
	高度障害保険金	13,341	10,936
	満期保険金	749	882
	その他	1	1
	小 計	79,877	78,067
年金		3,913	3,780
給付金		21,779	21,654
解約返戻金		152,278	123,734
保険金据置支払金		1,851	1,826
その他共計		260,304	229,698

(2) 責任準備金明細表 (単位：百万円)

区 分		2015年度末	2016年度末
責 任 準 備 金 (除危険準備金)	個人保険	18,682,912	18,574,353
	(一般勘定)	(18,628,551)	(18,518,765)
	(特別勘定)	(54,360)	(55,587)
	個人年金保険	4,269,896	4,590,016
	(一般勘定)	(4,227,594)	(4,560,343)
	(特別勘定)	(42,302)	(29,673)
	団体保険	25,098	24,705
	(一般勘定)	(25,098)	(24,705)
	団体年金保険	6,064,247	6,106,621
	(一般勘定)	(5,142,251)	(5,114,840)
	(特別勘定)	(921,996)	(991,781)
その他	365,961	359,379	
(一般勘定)	(365,961)	(359,379)	
小 計	29,408,116	29,655,076	
(一般勘定)	(28,389,457)	(28,578,033)	
(特別勘定)	(1,018,659)	(1,077,042)	
危険準備金	576,093	594,093	
(一般勘定)	(576,093)	(594,093)	
合 計	29,984,210	30,249,170	
(一般勘定)	(28,965,551)	(29,172,127)	
(特別勘定)	(1,018,659)	(1,077,042)	

(3) 責任準備金残高の内訳 (単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
保険料積立金	28,855,624	28,989,729
未経過保険料	552,492	665,347
払戻積立金	—	—
危険準備金	576,093	594,093
合 計	29,984,210	30,249,170

(4) 個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式、積立率、残高 (契約年度別)

①責任準備金の積立方式・積立率

区 分		2015年度末	2016年度末
積立方式	標準責任準備金対象契約	標準責任準備金	標準責任準備金
	標準責任準備金対象外契約	平準純保険料式	平準純保険料式
積立率 (危険準備金を除く)		100.0%	100.0%

(注) 1.積立方式及び積立率は、個人保険及び個人年金保険を対象としています。なお、団体保険及び団体年金保険の責任準備金は積立方式という概念がないため、上記には含んでいません。  
2.積立率については、標準責任準備金対象契約に関しては平成8年大蔵省告示第48号に定める方式により、また、標準責任準備金対象外契約に関しては平準純保険料式により計算した保険料積立金及び未経過保険料に対する積立率を記載しています。

②責任準備金残高 (契約年度別) (単位：百万円)

契約年度	2016年度末	予定利率
～1980年度	689,126	2.75%～5.50%
1981年度～1985年度	1,217,285	2.75%～5.50%
1986年度～1990年度	4,700,749	2.75%～5.50%
1991年度～1995年度	4,233,721	2.75%～5.50%
1996年度～2000年度	1,504,866	2.00%～2.75%
2001年度～2005年度	1,682,632	1.50%
2006年度～2010年度	3,318,258	1.50%
2011年度	981,675	1.50%
2012年度	1,030,271	1.50%
2013年度	855,849	1.00%
2014年度	1,150,335	1.00%
2015年度	854,546	1.00%
2016年度	859,791	1.00%

(注) 1.上表は、個人保険及び個人年金保険の責任準備金 (特別勘定の責任準備金及び危険準備金を除く) を記載しています。  
なお、内訳については、一部保険数理に基づく合理的な方法により契約年度別に配賦しています。  
2.「予定利率」については、各契約年度別の責任準備金に係る主な予定利率を記載しています。

(5) 特別勘定を設けた保険契約であって、保険金等の額を最低保証している保険契約に係る一般勘定の責任準備金の残高、算出方法、その計算の基礎となる係数

①責任準備金残高（一般勘定）

(単位：百万円)

区分	2015年度末	2016年度末
責任準備金残高 (一般勘定)	200	112

(注) 1.保険業法施行規則第68条に規定する保険契約（標準責任準備金対象契約）を対象としています。  
2.「責任準備金残高（一般勘定）」は、最低保証に係る保険料積立金を記載しています。

②算出方法、その計算の基礎となる係数

算出方法は、平成8年大蔵省告示第48号に定める標準的方式を使用しています。

計算の基礎となる係数である予定死亡率、割引率、期待収益率及びボラティリティは同号に定める率を使用しています。ただし、規定されていない資産種類のボラティリティについては以下の表の率を使用しています。

資産種類	ボラティリティ
円貨建短期資金	0.3%
外貨建短期資金	12.1%
不動産投資信託	18.4%

(6) 第三分野保険に係る責任準備金の積立てについて（法第二百一十一条第一項第一号の確認（第三分野保険に係るものに限る。）の合理性及び妥当性）

第三分野保険は、医療制度の変化や医療技術の進歩等の影響を受けやすく、また、長寿化にともなう給付金等のお支払いの増加も想定される等、第三分野保険の発生率は変動しやすいという特性を有しています。このような第三分野保険の商品特性を踏まえ、当社では、確実に給付金等のお支払いのために、保険事故発生率の把握・分析をはじめとする保険引受リスク管理の取組みを行っています。支払能力のさらなる向上のため第三分野保険の一部に対して追加責任準備金を積み立てており、2016年度末の残高は64億円となっています。

法令等に定める第三分野保険に係るストレステストは、法令等に則り契約区分ごとに実績発生率に基づいて危険発生率等を設定し、適切に実施しています。

その結果、ストレステストに基づく危険準備金として積み立てる金額はありません。また、保険業法第121条の定めに従い実施することとなっている負債十分性テストは、対象となる契約区分がなかったことから実施していません。

(7) 契約者配当準備金明細表

(単位：百万円)

区分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険、 財形年金保険	その他の 保険	合計	
2015年度	当期首現在高	293,226	5,916	62,774	40,281	1,101	2,266	405,566
	利息による増加	8,512	103	17	2	2	0	8,639
	配当金支払による減少	20,088	1,257	59,948	37,910	152	1,646	121,003
	その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
	当期繰入額	16,439	1,404	62,367	15,694	—	1,595	97,500
	当期末現在高	298,090	6,166	65,210	18,067	951	2,215	390,701
	(273,340)	(3,520)	(1,489)	(803)	(899)	(96)	(280,150)	
2016年度	当期首現在高	298,090	6,166	65,210	18,067	951	2,215	390,701
	利息による増加	8,284	87	11	0	0	0	8,384
	配当金支払による減少	18,814	556	61,772	15,306	119	1,632	98,201
	その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
	当期繰入額	10,550	2,327	63,675	6,841	—	1,604	85,000
	当期末現在高	298,110	8,026	67,124	9,602	833	2,187	385,884
	(273,145)	(3,377)	(1,484)	(804)	(780)	(89)	(279,680)	

(注) ( ) 内には、当期末現在高のうち積立配当金を記載しています。

## (8) 引当金明細表

(単位：百万円)

区 分	2015年度			2016年度			
	当期首	当期末	当期増減額	当期首	当期末	当期増減額	
貸倒引当金	一般貸倒引当金	1,146	487	△659	487	737	249
	個別貸倒引当金	959	749	△209	749	735	△14
投資損失引当金	—	423	423	423	444	21	
退職給付引当金	389,480	377,967	△11,512	377,967	380,870	2,902	
役員退職慰労引当金	1,990	1,868	△122	1,868	1,498	△370	
時効保険金等戻引当金	700	800	100	800	800	—	
価格変動準備金	132,453	148,453	16,000	148,453	164,453	16,000	

(注) 計上の理由及び算出方法については、会計方針及び注記事項に記載しているため省略しています。

## (9) 特定海外債権引当勘定の状況

2015年度末、2016年度末ともに残高がないため、記載していません。

## (10) 借入金等残存期間別残高

(単位：百万円)

区 分	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合計
	2015年度末						
社債	—	—	—	—	—	215,727	215,727
借入金	3,277	—	—	—	—	283,000	286,277
リース債務	1,589	2,320	482	0	—	—	4,393
合 計	4,867	2,320	482	0	—	498,727	506,398
2016年度末							
社債	—	—	—	—	—	476,277	476,277
借入金	—	—	—	—	—	283,000	283,000
リース債務	1,969	2,050	936	—	—	—	4,956
合 計	1,969	2,050	936	—	—	759,277	764,233

(注) 貸借対照表上の金額を記載しています。

## 〈資本関係〉

## (1) 資本金等明細表

(単位：百万円)

区 分	2016年度下半期				
	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	
資本金	60,000	—	—	60,000	
うち既発行株式	普通株式	6,000株	—	—	6,000株
	計	60,000	—	—	60,000
資本剰余金	資本準備金	60,000	—	—	60,000
	その他資本剰余金	410,000	—	—	410,000
	計	470,000	—	—	470,000

(注) 2016年10月1日付で持株会社体制に移行したため、2016年10月～2017年3月の【現】第一生命の数値を記載しています。

&lt;参考&gt; 【旧】第一生命における2016年4月～9月の資本金等明細表は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2016年度上半期				
	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	
資本金	343,146	—	—	343,146	
うち既発行株式	普通株式	1,198,023,000株	—	—	1,198,023,000株
	計	343,146	—	—	343,146
資本剰余金	資本準備金	343,146	—	—	343,146
	その他資本剰余金	625	—	359	266
	計	343,772	—	359	343,412

# 〈保険金等の支払能力の充実の状況〉

## (1) ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2015年度末	2016年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	6,741,736	5,936,832
資本金等 <sup>※1</sup> ①	1,132,993	527,591
価格変動準備金 ②	148,453	164,453
危険準備金 ③	576,093	594,093
一般貸倒引当金 ④	487	737
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90% (マイナスの場合100%) ⑤	2,426,025	2,446,154
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%) ⑥	82,189	113,883
全期チルメル式責任準備金相当額超過額 ⑦	1,932,954	2,019,361
負債性資本調達手段等 ⑧	498,727	759,277
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額 ⑨	△56,028	△709,214
控除項目 ⑩	△199,507	△4,000
その他 ⑪	199,348	24,495
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3+R_7)^2+R_4}$ (B)	1,496,746	1,396,021
保険リスク相当額 R <sub>1</sub> ⑫	74,483	70,408
第三分野保険の保険リスク相当額 R <sub>6</sub> ⑬	172,591	177,428
予定利率リスク相当額 R <sub>2</sub> ⑭	233,024	223,664
最低保証リスク相当額 R <sub>7</sub> <sup>※2</sup> ⑮	3,341	3,215
資産運用リスク相当額 R <sub>3</sub> ⑯	1,205,585	1,114,653
経営管理リスク相当額 R <sub>4</sub> ⑰	33,780	31,787
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	900.8%	850.5%

※1 社外流出予定額及び評価・換算差額等を除いています。

※2 標準的方式を用いて算出しています。

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

## (2) ソルベンシー・マージンの内訳

### ①資本金等

貸借対照表の純資産の部の額から、剰余金の処分による社外流出予定額及び評価・換算差額等の額を除いた額。

### ②価格変動準備金

貸借対照表の価格変動準備金の額。

### ③危険準備金

貸借対照表の責任準備金の一部である危険準備金の額。

### ④一般貸倒引当金

貸借対照表の貸倒引当金の一部である一般貸倒引当金の額。

### ⑤その他有価証券評価差額金（税効果控除前）・繰延ヘッジ損益（税効果控除前）

以下の金額の合計額。

- ・貸借対照表の純資産の部に計上されているその他有価証券評価差額金に、この額に係る法人税等相当額等を加えた額。（売買目的有価証券、満期保有目的債券、責任準備金対応債券及び子会社等株式を除く、時価のある有価証券の含み損益。）
- ・貸借対照表の純資産の部に計上されている繰延ヘッジ損益に、この額に係る法人税等相当額等を加えた額。（ヘッジ対象に係る評価差額が貸借対照表のその他有価証券評価差額金の科目に計上されている場合におけるものに限る。）

### ⑥土地の含み損益

土地・借地権等の含み損益。（貸借対照表の土地再評価差額金、再評価に係る繰延税金資産・負債の合計額を含む。）

### ⑦全期チルメル式責任準備金相当額超過額

貸借対照表の責任準備金（危険準備金を除く。）のうち、全期チルメル式責任準備金相当額と解約返戻金相当額のいずれか大きい額を超える額。

### ⑧負債性資本調達手段等

貸借対照表の借入金の一部及び社債に計上した劣後ローンや劣後債の額のうち、返済の要件等について一定の条件を満たす額。

債務の性質によって、期限付劣後債務と特定負債性資本調達手段に分かれる。

### ⑨全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額

全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等（特定負債性資本調達手段を除く。）の合計額が、算入限度額を超過する額。

### ⑩控除項目

以下の金額の合計額。

- ・他の保険会社の保険金等の支払い能力の向上や子会社等（銀行等を子会社等としている場合）の自己資本比率等の向上のため、意図的に当該他の保険会社又は会社等の株式その他の資本調達手段を保有している場合、その金額。
- ・受再保険会社が一方的に解約できる旨が定められている再保険契約に係る未償却出再手数料（保険会社が受再保険会社から収受した手数料のうち、当該再保険契約により再保険に付した部分に係る将来の収益又は利益から受再保険会社に支払うもの）の残高。（2015年度以降新契約に限る。）

### ⑪その他

貸借対照表の契約者配当準備金の一部、純資産の部の任意積立金等に係る税効果相当額の合計額。

## (3) リスクの内訳

### ⑫保険リスク

大災害の発生等により、保険金等の支払いが急増するリスク。

### ⑬第三分野保険の保険リスク

医療保険やがん保険等のいわゆる第三分野保険について、通常の予想を超える保険金等の支払いが急増するリスク。

### ⑭予定利率リスク

運用環境の悪化により、資産運用利回りが予定利率を下回るリスク。

### ⑮最低保証リスク

変額保険、変額年金保険の保険金等の最低保証に関するリスク。

### ⑯資産運用リスク

資産運用に関するリスクで、株価暴落・為替相場の激変等により資産価値が大幅に下落するリスクや、貸付先企業の倒産等により貸倒れが急増するリスク等。

### ⑰経営管理リスク

業務の運営上通常の予想を超えて発生し得るリスクで、他のリスクに該当しないもの。

(4) 保険会社及びその子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況（連結ソルベンシー・マージン比率）

(単位：百万円)

項目	2016年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	5,858,298
資本金等 <sup>※1</sup>	532,465
価格変動準備金	164,453
危険準備金	594,093
異常危険準備金	—
一般貸倒引当金	737
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	2,446,154
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	113,883
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△27,581
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	2,019,361
負債性資本調達手段等	759,277
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△709,214
控除項目	△59,827
その他	24,495
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1^2+R_5^2+R_6^2+R_9^2)+(R_2+R_3+R_4)^2+R_7+R_8}$ (B)	1,379,562
保険リスク相当額 R <sub>1</sub>	70,408
一般保険リスク相当額 R <sub>5</sub>	—
巨大災害リスク相当額 R <sub>6</sub>	—
第三分野保険の保険リスク相当額 R <sub>8</sub>	177,428
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R <sub>9</sub>	—
予定利率リスク相当額 R <sub>2</sub>	223,664
最低保証リスク相当額 R <sub>7</sub> <sup>※2</sup>	3,215
資産運用リスク相当額 R <sub>3</sub>	1,098,246
経営管理リスク相当額 R <sub>4</sub>	31,459
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	849.2%

※1 社外流出予定額及びその他の包括利益累計額等を除いています。

※2 標準的方式を用いて算出しています。

(注) 1.上記は、保険業法施行規則第86条の2、第88条及び平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。  
2.2016年10月の持株会社化に伴い、現第一生命傘下の非連結子会社等を含めた連結ソルベンシー・マージン比率を算出しております。

## 〈保険事業関係収支〉

### (1) 保険料明細表

(単位：百万円)

区 分	支払方法	2015年度	2016年度
個人保険	月払	1,025,055	1,014,326
	半年払	8,227	7,721
	年払	144,763	157,446
	一時払	360,648	119,082
	その他共計	1,556,357	1,312,142
個人年金保険	月払	175,646	192,727
	半年払	1,125	1,022
	年払	81,284	174,905
	一時払	2,021	1,573
	その他共計	366,831	454,687
団体保険	月払	126,981	126,528
	半年払	3,771	3,604
	年払	18,479	18,391
	一時払	—	—
	その他共計	149,232	148,523
団体年金保険	月払	637,029	498,557
	半年払	38,838	38,106
	年払	74,898	54,139
	一時払	8,514	8,377
	その他共計	759,280	599,181
その他共合計	月払	1,997,322	1,863,309
	半年払	52,114	50,605
	年払	320,291	405,683
	一時払	371,239	129,085
	その他共計	2,865,384	2,546,708

(注) 1.月払には団体月払も含んでいます。

2.その他共計には前納、変更分も含んでいます。

3.その他共計には財形保険・財形年金保険・医療保障保険・就業不能保障保険及び受再保険も含んでいます。

### (2) 収入年度別保険料明細表

(単位：百万円、%)

区 分		2015年度	2016年度
個人保険 個人年金保険	初年度保険料	542,722	403,538
	次年度以降保険料	1,380,467	1,363,291
	小計	1,923,189	1,766,829
団体保険	初年度保険料	532	557
	次年度以降保険料	148,700	147,966
	小計	149,232	148,523
団体年金保険	初年度保険料	2,565	2,163
	次年度以降保険料	756,715	597,017
	小計	759,280	599,181
その他共計	初年度保険料	546,873	407,590
	次年度以降保険料	2,318,510	2,139,117
	計	2,865,384	2,546,708
	(増加率)	(△12.3)	(△11.1)

(注) その他共計には財形保険・財形年金保険・医療保障保険・就業不能保障保険及び受再保険の収入保険料を含んでいます。

## (3) 保険金明細表 (金額)

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
死亡保険金	311,307	152	59,193	—	—	3,029	373,683	374,929
災害保険金	3,412	13	93	—	27	—	3,547	3,341
高度障害保険金	14,057	10	5,033	—	—	—	19,100	19,253
満期保険金	328,294	—	294	6,718	913	—	336,221	274,283
その他	40,078	—	1,116	—	—	3	41,198	37,193
合 計	697,149	175	65,732	6,718	941	3,033	773,749	709,000

## (4) 保険金明細表 (件数)

(単位：件)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
死亡保険金	71,166	32	44,747	—	—	502	116,447	114,878
災害保険金	753	5	159	—	3	—	920	955
高度障害保険金	2,170	3	3,076	—	—	—	5,249	5,301
満期保険金	156,627	—	159	1	1,191	—	157,978	139,864
その他	18,517	—	299	—	—	6	18,822	16,999
合 計	249,233	40	48,440	1	1,194	508	299,416	277,997

## (5) 年金明細表

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
年金支払額	28,050	245,116	934	252,970	7,942	—	535,014	592,255

## (6) 給付金明細表 (金額)

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
死亡給付金	3,036	8,650	—	420	325	—	12,433	14,725
入院給付金	55,429	329	39	—	—	420	56,220	55,669
手術給付金	46,315	290	—	—	—	260	46,866	44,801
障害給付金	2,611	17	33	192	—	—	2,855	2,840
生存給付金	20,906	517	—	—	1,246	—	22,671	28,167
一時金	—	9,000	56	201,740	—	—	210,798	226,335
その他	9,498	7	6	—	—	30	9,543	9,202
合 計	137,799	18,814	136	202,353	1,572	712	361,388	381,741

## (7) 給付金明細表 (件数)

(単位：件)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
死亡給付金	10,703	2,233	—	—	77	—	13,013	11,722
入院給付金	555,708	3,379	3,145	—	—	12,349	574,581	558,298
手術給付金	421,970	3,257	—	—	—	2,569	427,796	407,112
障害給付金	1,486	22	176	—	—	—	1,684	1,702
生存給付金	98,812	3,304	—	—	292	—	102,408	107,355
一時金	—	750	158	643,418	—	—	644,326	679,309
その他	227,775	309	429	—	—	929	229,442	218,943
合 計	1,316,454	13,254	3,908	643,418	369	15,847	1,993,250	1,984,441

## (8) 解約返戻金明細表

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2016年度 合計	2015年度 合計
解約返戻金支払額	320,759	47,371	273	112,658	26,583	—	507,647	584,186



## 〈特別損益〉

(1) 固定資産等処分益明細表 (一般勘定) (単位: 百万円)

区 分	2015年度	2016年度
有形固定資産	272	4,959
土地	168	4,516
建物	103	443
リース資産	—	—
その他	—	—
無形固定資産	14	16
その他	—	—
合 計	286	4,976
うち賃貸等不動産	258	2,150

(2) 固定資産等処分損明細表 (一般勘定) (単位: 百万円)

区 分	2015年度	2016年度
有形固定資産	1,130	13,719
土地	784	6,267
建物	205	7,433
リース資産	2	0
その他	138	18
無形固定資産	60	13
その他	115	160
合 計	1,307	13,892
うち賃貸等不動産	957	10,829

## 〈その他収支〉

(1) 減価償却費明細表

(単位: 百万円、%)

区 分	取得原価	2016年度償却額	減価償却累計額	2016年度末残高	償却累計率
有形固定資産	309,184	8,984	198,241	110,943	64.1
建物	285,785	6,164	182,868	102,916	64.0
リース資産	11,324	1,767	6,401	4,923	56.5
その他の有形固定資産	12,074	1,053	8,971	3,103	74.3
無形固定資産	136,085	20,161	48,292	87,793	35.5
その他	16,646	1,745	4,855	11,790	29.2
合 計	461,916	30,892	251,389	210,527	54.4

(2) 事業費明細表

(単位: 百万円)

区 分	2015年度	2016年度
営業活動費	162,475	178,496
営業管理費	68,046	68,931
一般管理費	173,593	174,661
合 計	404,114	422,089

- (注) 1. 営業活動費は、新契約の締結に向けた営業活動に必要な経費を中心に構成されています。  
 2. 営業管理費は、広告宣伝や募集機関に関する経費等により構成されています。  
 3. 一般管理費は、保険料収納関係経費、システム関連経費及び店舗経費等により構成されています。なお、2016年度における生命保険契約者保護機構への負担金は3,562百万円であります。

(3) 税金明細表

(単位: 百万円)

区 分	2015年度	2016年度
国税	16,012	21,038
消費税	13,671	14,812
地方法人特別税	2,046	1,888
印紙税	292	313
登録免許税	2	4,023
その他の国税	0	0
地方税	12,399	12,122
地方消費税	3,674	3,986
法人事業税	4,901	4,523
固定資産税	3,273	3,220
不動産取得税	20	0
事業所税	517	379
その他の地方税	10	12
合 計	28,411	33,160

(4) リース取引

[通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引]

2015年度末、2016年度末ともに該当取引がないため、記載していません。